国立国語研究所学術情報リポジトリ

山梨県早川町奈良田

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, いずみ, 三樹, 陽介, 吉田, 雅子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003550

山梨県早川町奈良田*

小西いずみ[a]　　三樹陽介[b]　　吉田雅子[c]

[a]東京大学／国立国語研究所 共同研究員

[b]駒沢大学／国立国語研究所 共同研究員

[c]実践女子大学

1.　地域の概要

奈良田（ならだ）は，山梨県南巨摩郡早川町（みなみこまぐんはやかわちょう）の北端の集落である（図 1）。南アルプスの登山口にあたり，最近隣の集落は約 10km 南の上湯島（かみゆじま）である。2015 年の国勢調査によると，奈良田の人口は 42 名で内 65 歳以上が 16 名だが，これは集落から離れた発電所の寮の居住者なども含まれた数であり，集落の居住者はもっと少なく，高齢化率はさらに高い。

図 1　奈良田集落の位置（付. 山梨県東部・西部方言の境界）

奈良田は，周囲と隔絶した地理・社会環境から「秘境」とされてきた[1]。長く集落内で婚姻関係を結んでおり，1950 年代まで生業は焼畑，曲物作り，狩猟であった。史料で集落が確認でき

* 本研究は国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」および，JSPS 科研費 17K02777，19H01255，20H00015，20K20704，21K18376，21H04351 の助成を受けたものである。長期間にわたる本研究の調査にご協力くださった，深沢實氏，深沢いさを氏，深沢福雄氏，深沢はな江氏，深沢作一氏，上原佑貴氏をはじめとする奈良田の皆様に深く御礼申し上げる。また，有益な指摘・助言をくださった査読者，細部に至るまで丁寧に確認してくださった校閲者に御礼申し上げる。

るのは室町期だが，集落には，孝謙天皇（在位 749-758 年）が滞在し奈良田温泉で湯治したという伝説があり，集落名やその言語特徴（特にアクセント）もこの伝説に関連づけて語られることがある。1950 年代，早川流域の発電所建設事業開始を契機として集落の環境が大きく変化した。道路が整備され路線バスが開通，また，元の集落にダムが作られることとなり集落は数百メートル北東に移転した（1960 年完了）。並行して男性の多くが発電所や早川町役場に勤務するようになり（他に数世帯が旅館・民宿経営），焼畑は行われなくなった。西山小学校奈良田分校は 1964 年に廃校となった。高校への進学率が高くなり，子の高校進学時に甲府など他地域に移る世帯が増えていった[2]。民宿・旅館は年々少なくなったが，早川町営の温泉施設が長く登山客や観光客を集めてきた。最近ではもともと集落にルーツのない移住世帯が複数あり，宿泊施設や飲食店が新しくできるなどしている。

奈良田方言はその聴覚的な印象において周囲の山梨西部方言（国中（くになか）方言）と大きく異なる。そのため奈良田は「方言の島」ともされ，山梨県内の方言区画では山梨東部方言・山梨西部方言と並ぶ独立した区画を与えられてきた（吉田 2014: 53）。ただし，山梨西部方言と奈良田方言を区別する第一の言語特徴は単語アクセントであり，それ以外の音韻・語彙・文法特徴は山梨西部方言と共通するものも多い。現在の奈良田方言の話者は高齢者に限られている[3]。また，奈良田方言話者は，山梨西部方言話者と不断に接触することで山梨西部方言も習得しており，2 方言を場面により使い分ける。この 2 つの方言は，単語アクセントのしくみの違いにより明確に区別され，1 つの発話単位内でのコード混合（code-mixing）はほとんど生じない。2000 年頃は奈良田方言話者どうしでは奈良田方言を使い，他地域に出た時や奈良田方言を解さない者に対して山梨方言を使うという状況であった（小西 2001）。しかし近年は，話者の高齢化と減少がさらに進み，集落内でさまざまな人と接する機会が増えたことから，奈良田方言話者どうしが集落内で会話する場合でも奈良田方言を使わないことが増えている（小西 2021）。

奈良田方言の音韻・語彙・文法の記述的研究として，『奈良田の方言』（稲垣正幸・清水茂夫・深沢正志編 1957），『西山村総合調査報告書』（西山村総合学術調査団編 1958）第四編「言語」がある。奈良田方言を特徴づけるアクセントについては，この 2 書所収の稲垣の論考において音調の記述とともに成立過程が論じられ，さらに上野（1975, 1976, 1984）により共時的解釈がなされた。語彙については上掲 2 書の深沢正志（1957），深沢泉（1958）のほか，上野（1977，1981）の記述がある。また，資料として『日本言語地図』（国立国語研究所 1966-1974），『方言文法全国地図』（国立国語研究所 1989-2006），DVD『方言の島　奈良田のことば』（地域資料デジタル化研究会 2013）などがある。社会言語学的状況については篠崎・荻野（1999），小西（2001, 2021）が報告している。

---

[1] 例えば深沢（1989）の著書のタイトルは『秘境・奈良田』である。また，『西山村総合調査報告書』（西山村総合学術調査団 1958）の巻頭に寄せられた当時の山梨県知事らの序文に「甲斐の秘境」「桃源郷」などの表現が用いられている。

[2] 奈良田の近代史については西山村総合学術調査団（1958），早川町教育委員会（1980），深沢（1989）参照。

[3] 1998 年の東京都立大学の共同調査時，すでに奈良田方言の話者は 40 代以上に限られていた（篠崎・荻野 1999，小西 2001）。

本稿は，筆者らが 2017～2022 年に行った調査で得たデータを基本とし[4]，一部は小西が 1999～2005 年に行った調査で得たデータを参照している。話者は下のとおりである。得られたデータでは話者間で差があるように見えるものも混じるが，それが確かに個人の言語体系の差なのか未検証である。以下では特に必要な場合以外は，話者の別は記さない。

A：1934 年生まれ・男性，B：1938 年生まれ・女性，C：1938 年生まれ・男性，
D：1937 年生まれ・女性，E：1917 年生・男性（故人）

2. 音韻論

2.1 音素目録

2.1.1 母音音素

母音音素は /i, u, e, o, a/ の 5 つである（表 1）。語例を(1)に示す。

表 1　母音音素

	前	後
狭	i [i]	u [u]
	e [e]	o [o]
広	a [a]	

(1)　/i/ [i]　/iki/ [ikʲi]（息），/mi/ [mʲi]（実）
/u/ [u]　/utu/ [utu ~ uʈu]（けもの道），/mukasi/ [mukaɕi]（昔）
/e/ [e]　/jeki/ [jekʲi]（駅），/me/ [me]（目）
/o/ [o]　/obi/ [obʲi]（帯），/kimo/ [kʲimo]（肝臓）
/a/ [a]　/araku/ [alaku ~ aɭaku]（1 年目の焼き畑），/kabucja/ [kabutɕa]（かぼちゃ）

表 1 と(1)に記すように，/u/ は円唇母音 [u] である。狭母音 /i, u/ は無声子音間にあるとき無声化することがあるが，東京方言に比べると無声化が顕著でなく，起こらないこともしばしばある[5]。

/e/ は元来は語頭に位置しなかったようで，現代日本語の全国共通語（以下「共通語」）の語頭の /e/ に対応して /je/ [je] が現れる。(1)にあげた /jeki/（駅）以外に，/je/ [je]（絵），/jeza/ [jeða]（枝），/jeeŋa/ [jeːŋa]（映画），/jerabu/ [jelabu ~ jeɭabu]（選ぶ）などの例を得ている[6]。ただし現在は，/e/ [e] が優勢の話者もあり，同じ話者でも /je/ と /e/ でゆれる。

上の短母音に対応する長母音 /ii, uu, ee, oo, aa/ がある。語例は 2.2 (2)に示す。

共通語の /ae/ が /ai/ に対応する語が多く，一部は /aa/ になる。また，共通語の /oe/ が /oi/に対応する。1 つの形態素内では，/kai-ru/（帰る・返る），/temai/（再帰代名詞「自分」。lit. 手前），

[4] 2020 年春のいわゆるコロナ禍以降，臨地調査は行っておらず，小西がビデオ通信によるオンライン調査を行った。その話者は後掲の話者 A に限られている。
[5] 筆者らが基礎語彙や文法の調査で得た例を観察する限りではそうだが，音響的・計量的な検証が必要である。
[6] 共通語の/ie/（家）も/jee/ [jeː]となる。

/namai/（名前），/maa/（前），/naa/（苗），/koi/（声），/koi+bisjaku/（肥え柄杓），/noci+zoi/（後添＝後妻），/moi-ru/（燃える）など（ただし現在はこれらが /ae/, /oe/ で現れることもある）。また，子音語幹動詞の命令形はカケ /kak-e/，ノメ /nom-e/ など語尾 -e で作られるが，w 語幹（ワ行）動詞の命令形は，カイ /kai/ //kaw-e//（買え），ウタイ /utai/ //utaw-e//（歌え）などとなる[7]。

また，/au/ が /oo/ になるのは中央語でも起こった変化だが（あふぎ /augi/ ＞ /oogi/（扇）など），奈良田方言では w 語幹動詞の基本終止形でも /oo/ になる。/koo/ //kaw-u//（買う），/utoo/ //utaw-u//など。共通語の非長母音と奈良田方言の長母音との対応としてはほかに，共通語 /(C)awa/ が奈良田方言の /(C)aa/ に対応する点があげられる（2.2）。

2.1.2　子音音素

音節頭に位置する子音音素として /p, b, m, t, d, s, z, c, n, r, k, g, ŋ, h, w, j/ がある（表 2）。/w, j/ は後述のように音節構造上，半子音と解釈する。

表 2　音節頭に位置する子音

		両唇音	歯・歯茎・硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無声	p [p ~ pʲ]	t [t ~ ʈ]	k [k ~ kʲ]	
	有声	b [b ~ bʲ]	d [d ~ ɖ]	g [g ~ gʲ]	
摩擦音	無声		s [θ ~ s ~ ɕ]		h [h ~ ç ~ ɸ]
	有声		z [ð ~ z ~ ʑ ~ dz ~ dʑ]		
破擦音	無声		c [tɕ]		
鼻音		m [m ~ mʲ]	n [n ~ nʲ]	ŋ [ŋ ~ ŋʲ]	
側面音・はじき音			r [l ~ lʲ ~ ɭ ~ ɭʲ ~ ɾ ~ ɾʲ]		
接近音		w [w]	j [j]		

各音素の硬口蓋化異音（ [Cʲ] および [ç][ʑ][tɕ][dʑ][ç] ）は母音 /i/ か半子音 /j/ が後続する環境で現れる。/kobiɴ/ [kobʲiɴ]（ひたい），/anii/ [anʲiː]（兄），/mosiki/ [moɕikʲi]（薪），/hibo/ [çibo]（紐），/sjatee/ [ɕateː]（弟）など。

/t, d, r/ は，伝統的にはそれぞれそり舌ぎみの [ʈ, ɖ, ɭ] だが，現在の話者にはそり舌性が伴わない人もいる。本稿の音声表記では [t, d, l] で代表させる場合がある。/i, j/ の前には /t, d/ は現れず，代わりにそれぞれ破擦（～摩擦）音 /c/ [tɕ]，/z/ [dʑ ~ ʑ] となる。なお，/t, d/ は /u/ の前には現れる。/tume/ [tume ~ ʈume]（爪），/tudumi/ [tuɖumʲi ~ ʈudumʲi]（鼓）など。ただし /tu/ は [tsu]，/du/ は [dzu] と，破擦音で実現することもある。これについては 2.2 で再度触れる。

/s, z/ は歯間音 [θ][ð] ～歯茎音 [s][dz ~ z] になる。[θ][ð] は特に母音 /u/ が続く環境で目立つ。

[7] // // は形態（音韻）論上の基底形を表す。

/ŋ/ はいわゆる「ガ行鼻濁音」にあたるもので，東京方言と同様に，/g/ は語頭に，/ŋ/ は語中に用いられる（ただし形態素境界の直後では /g/ が現れやすくなる）[8]。/kaŋami/ [kaŋamʲi]（鏡），/cjuuŋakusee/ [tɕuːŋakuθee]（中学生），/goma/ [goma]（胡麻），/gaQkoo/ [gakkoː]（学校）など。

/h/ は，/e, a/ の前で [h]，/i, j/ の前では上述のとおり [ç]，/u/ の前では [ɸ] となる。

音節末に位置する子音として /N/（撥音），/Q/（促音）がある。/N/ は鼻音であり，調音点は後続音に準じ，後続音がない環境では [N] となる。/Q/ は破裂音ないし摩擦音で，調音点は後続音に準じる。

2.2 音節構造とモーラ

(2)に音節構造と語例を示す。C は子音，S は半子音 /j, w/，V 単独は短母音，VV は長母音・二重母音，VVV は長母音かつ二重母音の構造（長母音の後部が二重母音の前部でもある構造）のものである[9]。「.」で音節境界を示す。音節末の C には上述のとおり /N/ と /Q/ のみが位置する。また，半子音 /w/ については，これが音節頭に位置する /wV(V)(C)/ はあるが，/CwV(V)(C)/ という音節はない[10]。

(2) /V/ /a.sa/ [aθa]（朝），/i.ma/ [ima]（今）
/VV/ /aa/ [aː]（粟），/oi.si/ [oiɕi]（2.SG）
/VVV/ /ooi/ [oːi]（多い）
/CV/ /te/ [te]（手），/ku.do/ [kudo]（かまど）
/CVV/ /naa/ [naa]（縄），/o.too/ [otoː]（父），/hi.rii/ [çilʲiː]（昼飯），
/te.no.ŋoi/ [tenoŋoi]（手拭い）
/CVVV/ /tooi/ [toːi]（遠い）
/SV/ /ni.wa/ [nʲiwa]（庭），/jo.moo/ [jomoː]（叱る），/ju.bi/ [jubʲi]（指）
/SVV/ /ju.wai/ [juwai]（祝い），/jee.sju/ [jeːɕu]（家族），/jui.noo/ [juinoː]（結納）
/SVVV/ /jooi/ [joːi]（容易）
/CSV/ /sja.ku/ [ɕaku]（ひしゃく），/kjo.neN/ [kʲoneN]（昨年）
/CSVV/ /ki.njoo/ [kʲinʲoː]（昨日），/kjuu.su/ [kʲuːθu]（急須）
/VC/ /aN.ma/ [amma]（乳），/oQ.to.si/ [ottoɕi]（一昨年）
/VVC/ /oiQ.ko/ [oikko]（甥）
/CVC/ /too.ŋaN/ [toːŋaN]（冬瓜），/meN.tee/ [menteː]（顔つき），
/maQ.to/ [matto]（もっと）
/CVVC/ /si.maiQ.ko/ [ɕimaikko]（末っ子），/haiQ.too/ [haittoː]（入る.PST）
/SVC/ /cja.waN/ [tɕawaN]（茶碗），/joQ.pa.roo/ [joppaɭoː]（酔っ払う）

[8] /ŋ/ と /g/ はおおよそ相補分布するが，語中で鼻音化することを同化とはみなしにくいことから，別の音素とみなす。
[9] ただし VVV は音節境界を伴って VV.V となることも多い。
[10] いわゆるカ・ガ行合拗音 /kwa/ は奈良田方言にはない。

/SVVC/　/joiQ.sa/ [joissa]（やっと）

/CSVC/　/cjaɴ.to/ [ʨanto]（ちゃんと），/sjaQ.po/ [ɕappo]（帽子）

/CSVVC/　/mjooQ.to/ [mʲoːtto]（夫婦）

モーラ体系を表 3 に示す。1 段目は音素表記（ / / は省略），2 段目は音声表記，3 段目はカタカナ表記。/t, d, r/ の [ʈ, ɖ, ɭ] は [t, d, l] で代表させている。

表 3 に示すように，奈良田方言では，/du/ と /zu/ [ðu ~ zu ~ ʤu] の対立がある。ただし，現在の話者では本来の /du/ [du ~ ɖu] が [ʤu]，さらに [zu ~ ðu] とも実現することがあり，その対立は失われつつある。(3)に話者 E の例を示す[11]。「屑」（くづ）が [kuʤu] と実現して「葛」との対立がない点以外は，おおよそ過去の中央語における「づ」と「ず」の違いが保たれている。

表 3　モーラ体系

i [i, ɨ] イ	u [u] ウ	e [e] エ	o [o] オ	a [a] ア	ju [ju] ユ	je [je] イェ	jo [jo] ヨ	ja [ja] ヤ	wa [wa] ワ
pi [pʲi] ピ	pu [pu] プ	pe [pe] ペ	po [po] ポ	pa [pa] パ	pju [pʲu] ピュ		pjo [pʲo] ピョ	pja [pʲa] ピャ	
bi [bʲi] ビ	bu [bu] ブ	be [be] ベ	bo [bo] ボ	ba [ba] バ	bju [bʲu] ビュ		bjo [bʲo] ビョ	bja [bʲa] ビャ	
mi [mʲi] ミ	mu [mu] ム	me [me] メ	mo [mo] モ	ma [ma] マ	mju [mʲu] ミュ		mjo [mʲo] ミョ	mja [mʲa] ミャ	
	tu [tu ~ tsu] ツ	te [te] テ	to [to] ト	ta [ta] タ					
ci [ʨi] チ					cju [ʨu] チュ		cjo [ʨo] チョ	cja [ʨa] チャ	
	du [du ~ ʤu] ヅ	de [de] デ	do [do] ド	da [da] ダ					
si [ɕi] シ	su [θu ~ su] ス	se [θe ~ se] セ	so [θo ~ so] ソ	sa [θa ~ sa] サ	sju [ɕu] シュ		sjo [ɕo] ショ	sja [ɕa] シャ	
zi [ʥi ~ ʑi] ジ	zu [ðu ~ ʤu ~ zu] ズ	ze [ðe ~ ʤe ~ ze] ゼ	zo [ðo ~ ʤo ~ zo] ゾ	za [ða ~ ʤa ~ za] ザ	zju [ʥu ~ ʑu] ジュ		zjo [ʥo ~ ʑo] ジョ	zja [ʥa ~ ʑa] ジャ	
ni [nʲi] ニ	nu [nu] ヌ	ne [ne] ネ	no [no] ノ	na [na] ナ	nju [nʲu] ニュ		njo [nʲo] ニョ	nja [nʲa] ニャ	

[11] http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~ikonishi/narada/narada_tudu.html に他の語例を音声とともに示す（2022 年 2 月現在）。

ri	ru	re	ro	ra	rju	rjo	rja
[lʲi ~ ɾʲi]	[lu ~ ɾu]	[le ~ ɾe]	[lo ~ ɾo]	[la ~ ɾa]	[lʲu ~ ɾʲu]	[lʲo ~ ɾʲo]	[lʲa ~ ɾʲa]
リ	ル	レ	ロ	ラ	リュ	リョ	リャ
ki	ku	ke	ko	ka	kju	kjo	kja
[kʲi]	[ku]	[ke]	[ko]	[ka]	[kʲu]	[kʲo]	[kʲa]
キ	ク	ケ	コ	カ	キュ	キョ	キャ
gi	gu	ge	go	ga	gju	gjo	gja
[gʲi]	[ɡu]	[ɡe]	[ɡo]	[ɡa]	[gʲu]	[gʲo]	[gʲa]
ギ	グ	ゲ	ゴ	ガ	ギュ	ギョ	ギャ
ŋi	ŋu	ŋe	ŋo	ŋa	ŋju	ŋjo	ŋja
[ŋʲi]	[ŋu]	[ŋe]	[ŋo]	[ŋa]	[ŋʲu]	[ŋʲo]	[ŋʲa]
ギ	グ	ゲ	ゴ	ガ	ギュ	ギョ	ギャ
hi	hu	he	ho	ha	hju	hjo	hja
[çi]	[ɸu]	[he]	[ho]	[ha]	[çu]	[ço]	[ça]
ヒ	フ	ヘ	ホ	ハ	ヒュ	ヒョ	ヒャ

特殊モーラ		
Q（促音）	i, e, a, o, u（長音後部）	ɴ（撥音）
[p][t][k]など	[ː ~ ˙]	[m ~ n ~ ŋ ~ ɴ ~ ĩ ~ ũ]
ッ	ー	ン

(3) 話者 E（1917 年生）の /du/ と /zu/ の対立（「 」内は歴史的仮名遣い）

/dutuu/ [ɖuʈuː]（頭痛）「づつう」

/tudumi/ [ʈuɖumʲi]（鼓）「つづみ」

/aduki/ [aɖukʲi]（小豆）「あづき」

/kuzu/ [kudʑu]（屑）「くづ」

/kuzu/ [kudʑu]（葛）「くず」

/zurui/ [dʑuɭui]（狡い）「ずるい」

/nezumi/ [neðumʲi]（鼠）「ねずみ」

共通語の /(C)awa/ は，奈良田では /(C)aa/ と実現する。(2)にあげた /aa/（粟），/naa/（縄）以外に，/kaa/（皮），/taara/（俵），/kaaru/（変わる），/maasu/（回す），/kazikazaa/（鰍沢［地名］）という例を得ている。

2.3 アクセントとイントネーション

奈良田方言は，n モーラ語に n+1 個のアクセント型があり，単語ごとにピッチの上昇の有無・位置が決まっているというアクセント体系を持つ（上野 1975，1976，1984）。アクセント上の弁別的特徴である上昇を上野（1984，2011）にならい「上げ核」と呼ぶ。(4)に話者 E による，1～3 モーラ名詞の，アクセント句頭に位置したときの音調とアクセント型（核の位置。無核の場合は 0 型）を示す[12]。

[12] 小西（2001）参照。http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~ikonishi/narada/narada_acN1-6.html に他の語例を音声とともに示す（2022 年 2 月現在）。

(4) 奈良田方言の 1〜3 拍名詞の音調とアクセント型

1 モーラ名詞

柄	[エ。	[エ]ガ オレ[ル。	[コ]ノエガ。	0 型（共 0 型）
日	[ヒ。	[ヒ]ガ サ[ス。	[コ]ノヒガ。	0 型（共 0 型）
絵	[エ。	エ[ガ] ウマ[イ。	[コ]ノエ[ガ。	1 型（共 1 型）
火	[ヒ。	ヒ[ガ] モエル。	[コ]ノヒ[ガ。	1 型（共 1 型）

2 モーラ名詞

鼻	[ハ]ナ。	[ハ]ナガ イカ[イ。	[コ]ノハナガ。	0 型（共 0 型）
水	[ミ]ヅ。	[ミ]ヅガ アマイ。	[コ]ノミヅガ。	0 型（共 0 型）
松	マ[ツ。	マ[ツ]ガ カレル。	[コ]ノマ[ツ]ガ。	1 型（共 1 型）
雨	ア[メ。	ア[メ]ガ フ[ル。	[コ]ノア[メ]ガ。	1 型（共 1 型）
石	[イ]シ。	[イ]シ[ガ] カタイ。	[コ]ノイシ[ガ。	2 型（共 2 型）
花	[ハ]ナ。	[ハ]ナ[ガ] サク。	[コ]ノハナ[ガ。	2 型（共 2 型）

3 モーラ名詞

車	[ク]ルマ。	[ク]ルマガ オ[ー]イ。	[コ]ノクルマガ。	0 型（共 0 型）
兎	[ウ]サギ。	[ウ]サギガ ハシ[ル。	[コ]ノウサギガ。	0 型（共 0 型）
後ろ	ウ[シ]ロ。	ウ[シ]ロガ ヨ[イ。	[コ]ノウ[シロ]ガ。	1 型（共 0 型）
兜	カ[ブ]ト。	カ[ブ]トガ ア[ル。	[コ]ノカ[ブトガ。	1 型（共 1 型）
命	[イ]ノ[チ。	[イ]ノ[チ]ガ オシ[ー。	[コ]ノイノ[チ]ガ。	2 型（共 1 型）
心	[コ]コ[ロ。	[コ]コ[ロ]ガ ヒロ[イ。	[コ]ノココ[ロ]ガ。	2 型（共 2 型, 3 型）
毛抜き	[ケ]ヌキ。	[ケ]ヌキ[ガ] ナ[イ。	[コ]ノケヌキ[ガ。	3 型（共 0 型, 3 型）
男	[オ]トコ。	[オ]トコ[ガ] イル。	[コ]ノオトコ[ガ。	3 型（共 3 型）

[上昇，] 下降，（共　）は共通語のアクセント型

(4)の多くの語のように上げ核による上昇は 1 モーラ分持続し，その後下降することが多いが，(4)の「後ろ」「兜」のように 2 モーラ以上続くこともある。これがどのような要因によるのか，まったくの自由変異なのかは不明である。

(4)には共通語のアクセント型を併記した。奈良田方言の上げ核の位置は，共通語の下げ核の位置にほぼ対応するが，(4)の「命」のように，異なることもある。奈良田方言のアクセント核の位置は，共通語より山梨西部方言（共通語と同じく下げ核によるアクセント体系を持つ）と対応している。(4)には含めなかったが，2 モーラ名詞ではアネ（姉）が共通語で 0 型 ア[ネガ なのに対し，山梨西部方言では 1 型 [ア]ネガ，奈良田方言でも 1 型 ア[ネ]ガ となるなどである。こうした特徴もふまえ，奈良田方言アクセントは山梨方言アクセントから変化して成立したと考えられている（稲垣 1957，上野 2011）。

また，(4)からも分かるように，アクセント句頭では 1 型以外の語が [○]○… と，高く始まって 1 モーラめで下降するという音調をとる。これは共通語において 1 型以外の語のアクセント句頭が ○[○○ と，低く始まって 1 モーラめで上昇することと並行的である。

句末・文末の音調についてはあまり明らかになっていない。現在分かっている特徴としては，疑問文では上昇を伴うこともあるが上昇しない方が多いこと（7.6.4 参照），感嘆文において終助詞ナーが高く平らになる音調が見られることが挙げられる（7.6.7 参照）。

3. 名詞・名詞句

3.1 人称代名詞

人称代名詞として 1 人称代名詞と 2 人称代名詞があり，それぞれ待遇・文体的価値の異なる複数の形がある。また，数（単数と複数）の区別がある。表 4 に示す[13]。人の疑問代名詞，再帰代名詞も加える。

表 4　人称代名詞

	単数	複数
1 人称代名詞	オレ *ore* ウラ *ura*	ウラ *ura* ウラガトー，ウラントー *ura-{ŋa, ɴ}too*
2 人称代名詞　中立	オイシ *oisi*	オンダチ *oɴdaci*
ぞんざい	ワレ *ware*	ワイラ *waira* ワレガトー，ワレントー *ware-{ŋa, ɴ}too*
卑罵	ウヌ *unu*	ウヌイラ *unuira*
人の疑問代名詞 （人の疑問連体詞）	ダレ *dare* （ダガ *daŋa*）	ダレガトー，ダレントー *dare-{ŋa, ɴ}too* ダガトー *daŋatoo*
再帰代名詞	テマイ *temai*	テマイダチ *temai-daci*

双数と複数の対立はなく，複数形が双数も表す。また，1 人称複数形において包括（聞き手を含む）と除外（聞き手を含まない）の対立はなく，同じ形が包括も除外も表す。

1 人称ウラは，単数としても複数としても用いられる。本来は単数形オレに対応する複数形だったが，単数も表すようになったと考えられる。単数を表す場合のウラに対応する複数形は，接尾辞ガトー・ントーを付けたウラガトー，ウラントーである。いずれの形も男性・女性ともに用いられる。(5)は単数のウラ，(6)は複数のウラ，(7)はウラガトーの例である[14]。

[13] 以下では，表や本文中で形式を示す場合，最初はカタカナと音素表記を併記し，繰り返し言及する場合は原則としてカタカナを用いる。音素表記の/ /は省略し，イタリック体とする。

[14] 以下では，例文を示す際，1 行目に表 3 に準じたカタカナ表記，2 行目に音素表記，3 行目にグロス（稿末の略号一覧参照），4 行目に共通語訳を記す。共通語訳はなるべく逐語的にするが，意味が通りにくい場合は意訳とともに（lit.）として逐語訳を補う。

(5) タローニャー　ウラガ　キモチワ　ワカラノーカ
taroo=njaa　*ura=ŋa*　*kimoci=wa*　*wakara-noo=ka*
太郎=DAT.TOP　私=GEN　気持ち=TOP　分かる-NEG.NPST=QP
太郎には私の気持ちが分からないのか。

(6) ソリャー　ウラガ　カシドーデ　ミンナデ　カズヨ
sorjaa　*ura=ŋa*　*kasi=doo=de*　*miɴna=de*　*ka-zu=jo*
それ.TOP　1.PL=GEN　菓子=COP.NPST=CSL　皆=INS　食う-VOL=SFP
それは私たちの菓子だから，皆で食おうよ。

(7) ウラガトーノ　コラー　ガッコーガ　アットー
ura-ŋatoo=no　*koraa*　*gaQkoo=ŋa*　*aQ-too*
1-PL=GEN　頃.TOP　学校=NOM　ある-PST
私たちの頃は学校があった。

2 人称は待遇・文体的価値に応じて 3 種あり，オイシ（単），オンダチ（複）が待遇的に中立的にも丁寧（対・上位者）にも用いうる形である。話者 A によると同年代の友人にも目上にも用いうる。ワレ（単），ワイラ（複），ワレ｛ガ・ン｝トー（複）はぞんざいな形で，男性が親しい同等以下（子や，ごく親しい友人）に用いるものである。ウヌ（単），ウヌイラ（複）は，(8)のように非難や罵倒表現で用いられる。オイシ・オンダチと，ワレ・ワイラ，ウヌ・ウヌイラとの間には属格において顕著な違いがある（3.6.2）。

(8) ｛ウヌガ／ウヌイラガ｝　サキー　テオ　ダイトージャ　ナイカ
{unu=ŋa / unuira=ŋa}　*saki=i*　*te=o*　*dai-too=zja*　*na-i=ka*
{2=NOM / 2.PL=NOM}　先=ALL　手=ACC　出す-PST=COP.ADVL　NEG-NPST=QP
｛お前が／お前らが｝先に手を出したんじゃないか。

複数形の構造に注目すると，ウラ｛ガ・ン｝トー，ワレ｛ガ・ン｝トー，ダレガトーは，単数形に複数接辞｛ガ・ン｝トー *-{ŋa, ɴ}too* を付加する分析的な形である[15]。｛ガ・ン｝トーは普通名詞にも付く（3.3）。再帰代名詞テマイの複数形はテマイダチ *temai-daci* であり，*テマイ｛ガ・ン｝トーは不適格である。他のウラ，オンダチ，ワイラ，ウヌイラは，通時的には複数接辞ラ *-ra* あるいはタチ *-taci* が付加したものと思われるが，共時的には分析できない総合的な形式である[16]。

[15] 表 4 にも記したように，人の疑問連体詞ダガにもとづいて形成された複数形ダガトーもある。ダガについては 4 節参照。
[16] ウヌイラについては接尾辞ラが付いたとも説明しにくい。ワイラ *waira*（＜**ware-ra*）から *ira* が再分析されたか。

3.2　数詞

1～10 までの数詞を表 5 に示す[17]。「基本」としたのは，対象を数え上げるときに用いる和語の形式で，**hii=ga*（一=NOM）など名詞としては用いられない。「物」「人」としたのは，それぞれ無生物，人を対象として用いられる形式である。「物」は全て和語だが，「人」は 1，2，4 以外は漢語となる。「-番」としたのは，字音形態素の類別接尾辞（助数接尾辞）バン *-baɴ* を付けた語で，4 と 7 を除き漢語である。「物」「人」「-番」の形式は名詞としても副詞としても用いられる（例(9)(10)）。

表 5　数詞

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基本	ヒー *hii*	フー *huu*	ミー *mii*	ヨー *joo*	イツ *itu*	ムー *muu*	ナー *naa*	ヤー *jaa*	ココノツ *kokonotu*	トー *too*
物	ヒトツ *hitotu*	フタツ *hutatu*	ミッツ *miQtu*	ヨッツ *joQtu*	イツツ *itutu*	ムッツ *muQtu*	ナナツ *nanatu*	ヤッツ *jaQtu*	ココノツ *kokonotu*	トー *too*
人	ヒトリ *hitori*	フタリ *hutari*	サンニン *san-niɴ*	ヨッタリ *joQtari*	ゴニン *go-niɴ*	ロクニン *roku-niɴ*	シチニン *sici-niɴ*	ハチニン *haci-niɴ*	クニン *ku-niɴ*	ジューニン *zjuu-niɴ*
番	イチバン *ici-baɴ*	ニバン *ni-baɴ*	サンバン *saɴ-baɴ*	ヨンバン *joɴ-baɴ*	ゴバン *go-baɴ*	ロクバン *roku-baɴ*	ナナバン *nana-baɴ*	ハチバン *haci-baɴ*	キューバン *kjuu-baɴ*	ジューバン *zjuu-baɴ*

(9)　フタリノ　オトコガ　ブッタタキッコー　シトーヨ
hutari=no　*otoko=ŋa*　*buQ-tataki-Qko=o*　*si-too=jo*
二.CLF=GEN　男=NOM　EMPH-叩く.NMNL-RECP=ACC　する-PST=SFP
二人の男がたたき合いをしたよ。

(10)　ハナコニャー　イモートガ　フタリ　イルヨ
hanako=njaa　*imooto=ŋa*　*hutari*　*i-ru=jo*
花子=DAT.TOP　妹=NOM　二.CLF　いる-NPST=SFP
花子には妹が二人いるよ。

3.3　単数と複数

人称代名詞の単数・複数の区別については 3.1 を参照。生産性の高い複数接尾辞としてガトー *-ŋatoo*，ントー *-ɴtoo* がある。3.1 に記したように一部の人称代名詞と，疑問代名詞ダレ *dare* に付くほか，人固有名詞，人を表す普通名詞，動物名詞に付くことを確認している（例(11)）。ガトーのガは属格，トーは字音形態素「党」に由来すると思われるが，共時的には全体で接尾辞化しているとみなせる。接尾辞ラ *-ra* やタチ・ダチ *-{t, d}aci* による複数形も得ているが（例(11)(12)），ガトー・ントー形のほうが用いやすいようである。

[17] 話者 A による。7 を表す和語・漢語の形式など話者によって多少の異同がある可能性がある。

(11) アノ　カショーワ
ano　*kasjoo=wa*
あの　菓子.ACC=TOP
｛タローガトーガ／オトコガトーガ／イヌガトーガ／イヌダチガ｝　クットーカー
{taroo-ŋatoo=ŋa / otoko-ŋatoo=ŋa / inu-ŋatoo=ŋa / inu-daci=ŋa}　*kuQ-too=kaa*
{太郎-PL=NOM / 男-PL=NOM / 犬-PL=NOM / 犬-PL=NOM }　食う-PST=QP
あの菓子は｛太郎たちが／男たちが／犬たちが｝食ったのか？

(12) ソノ　シャーダー　ソイツラガ　スルラニ
sono　*sjaadaa*　*soitu-ra=ŋa*　*su-ru=ra=ni*
その　仕事.TOP　そいつ-PL=NOM　する-NPST=INFR=SFP
その仕事はそいつらがするだろうよ。

無生物は複数形を持たない。単数形と同じ形が複数の意でも用いられる（例(13)(14)）。

(13) アソコニ　ガイニ　アル　サツマイモオ　クイタイ
asoko=ni　*gai=ni*　*ar-u*　*satumaimo=o*　*kui-ta-i*
あそこ=DAT　多量=COP.ADVL　ある-NPST　さつま芋=ACC　食う-DES-NPST
あそこにたくさんあるさつま芋を食いたい。

(14) アリョー　クイタイ
arjoo　*kui-ta-i*
あれ.ACC　食う-DES-NPST
［さつま芋が 1 つあるいは 2 つ以上あるのを指して］あれ（ら）を食いたい。

複数の人を表す語としてシュ（ー） *sju(u)* がある。字音形態素「衆」に由来すると思われる[18]。(15)(16)のように連体修飾句を伴わないと用いられない点で普通名詞より自立性を欠き，形式名詞と言える。同じ統語的制限を持つ単数の人名詞はモノ *mono*，モン *mo*N であり，モノ・モンとシュ（ー）が単複で対立しているとも捉えられる。シュ（ー）の接尾辞としての用法については 3.4 で述べる。

(15) アン　シュノ　ナマイオ　シッテールラカ
*a*N　*sju=no*　*namai=o*　*siQ-tee-ru=ra=ka*
あの　人.PL=GEN　名前=ACC　知る-CONT-NPST=INFR=QP
あの人たちの名前を知っているか？

[18] 短音形 *sju* のことが多い。3.4 に述べるように接尾辞としてのシュもある。また，山梨西部方言にはシュのほかにシ *si* がある。由来が「衆」であれば，山梨西部方言のほうが奈良田方言より新しい形と言える。

(16) キノー　　キトー　　シュワ　　ダレー
kinoo　　*ki-too*　　*sju=wa*　　*daree*
昨日　　来-PST　　人.PL=TOP　　誰
昨日来た人たちは誰？

3.4　名詞を構成する接辞

名詞を構成する接辞として(17)の形式を確認している。接尾辞には 3.3 で触れた複数接辞，類別接辞（助数接辞）もあるが略す。(17b)のシュは 3.3 で見た複数の人を表すシュ（ー）と同源である。

(17) 名詞を構成する接辞
a. 接頭辞
オ *o-* ：丁寧・美化
例）オチャ *o-cja* [POL-茶]（茶），オトー *o-too* [POL-父]（父）　（b のサンの例も参照）
b. 接尾辞（複数接辞，類別接辞は略）
サン *-saN*：尊称
例）オカンシンサン *o-kaNsiN-san* [POL-神主-HCR]（神主），
オツキョーサン *o-tukjoo-saN* [POL-月-HCR]（月）[19]
ッコ *-Qko*：相互
例）ブッタタキッコ *buQ-tataki-Qko* [EMPH-叩く.NMNL-RECP]（たたき合い）
シュ *-sju*：人（複数または単数）
例）オトコシュ *otoko-sju* [男-人.PL]（男たち），イェーシュ *jee-sju* [家-人.PL]（家族），
シンルイシュ *siNrui-sju* [親類-人.PL]（親戚の人たち），ワカイシュ *wakai-sju* [若い-人(.PL)]（青年（たち））

3.5　形式名詞

抽象名詞のうち何を形式名詞と認定するかは難しいが，ここでは連体句・連体節を伴う必要があるものとする（連体句・連体節を伴わずに用いうるが，それとは意味が異なる場合を含む）。(18)の形式を得ている。

(18) 形式名詞
シュ（ー）*sju(u)*：複数の人（3.3）
モノ *mono*，モン *moN*：人，物。また，コピュラを後接して感嘆を表す（7.6.7）
ヤツ *jatu*：物
ガ *ŋa*：物

[19] *tukjoo* は **tuki+jo*（月夜）に由来すると思われるが，話者 A によればオツキョーサンは月の意味である。

トコ *toko*：場所。コピュラを後接して事態の一局面を表す（7.5）

コロ *koro*：時

オリ *ori*：時。時間の副詞節を作る（8.9）

ウチ *uci*：期間。与格のニを後接して時間の副詞節を作る（8.9）

タメ *tame*：目的

ヨー *joo*：様子。コピュラを後接して推定形式（7.6.1），目的節（8.10），様態節を作る（8.11）

(19)に人を表すモノの例，(20)に物を表すモノの例を示す。(21)～(23)はヤツとガの例である。ヤツは連体節・連体詞両方に後接しうる。ガは(23)のように所有者を表す連体句（所有者名詞=属格）には後接しうるが，(21)のような連体節には物を表す場合でも後接できない[20]。(23)の「ダレガドー」のように，属格ガをとる名詞（3.6.2 参照）はその属格形式のみで「～の物」相当の意を表しうる。「*ダレガガドー」のように属格ガと形式名詞ガを重複することはできない[21]。

(19) ソノ　シャーダー　コノ　モノガ　スルラニ
sono　*sjaadaa*　*kono*　*mono=ŋa*　*su-ru=ra=ni*
その　仕事.TOP　この　者=NOM　する-NPST=INFR=SFP
その仕事はこいつがするだろうよ。

(20) ヤマデ　カットー　モノー　イェーサ　モッテ　キトー
jama=de　*kaQ-too*　*mono=o*　*jee=sa*　*moQ-te*　*ki-too*
山=INS　刈る-PST　物=ACC　家=ALL　持つ-SEQ　来る-PST
山で刈ったものを家に持ってきた。

(21) マット　イカイ　｛ヤツガ／*ガガ｝　ホシー
maQto　*ika-i*　*{jatu=ŋa / *ŋa=ŋa}*　*hosi-i*
もっと　大きい-NPST　{物=NOM / 物=NOM}　欲しい-NPST
もっと大きいのが欲しい。

(22) ソノ　ヤツー　ウケタイ
sono　*jatuu*　*uke-ta-i*
その　物.ACC　もらう-DES-NPST
それが欲しい（lit. その物をもらいたい）。

[20] この点からガは接語と扱っている。(22)のような指示連体詞にガが付くかは未確認。8.4 で見るような事態を表す名詞節（「行くのは（いやだ）」など）を作る用法はガにはない。
[21] 共通語の「これは｛誰の／*誰のの｝だ」と同様の現象と言える。

(23) コリャー　{ダレノガドー／ダレガドー／*ダレガガドー}
korjaa　*{dare=no=ŋa=doo / dare=ŋa=doo / *dare=ŋa=ŋa=doo}*
これ.TOP　{誰=GEN=物=COP.NPST / 誰=GEN=COP.NPST / 誰=GEN=物=COP.NPST}
これは誰のだ？

(24)は場所を表すトコの例である。トコはコピュラを後接して副次的なアスペクト形式としても機能する（7.5）。

(24) マット　シズカナ　トコデ　ネタイ。
maQto　*sizuka=na*　*toko=de*　*ne-ta-i*
もっと　静か=COP.ADN　所=INS　寝る-DES-NPST
もっと静かな所で寝たい。

コロの例を(25)に[22]，タメの例を(26)に示す。オリ，ウチは 8.9，ヨーは 7.6.1，8.10，8.11 参照。

(25) コドモノ　コラー　ヒトリデ　カンジョエ　イクガ　スゴク
kodomo=no　*koraa*　*hitori=de*　*kaɴzjo=e*　*ik-u=ŋa*　*sugo-ku*
子ども=GEN　頃.TOP　一人=INS　便所=ALL　行く-NPST=NOM　すごい-ADVL
オッカナカットー
oQkana-kaQtoo
怖い-PST
子どもの頃は一人で便所に行くのがすごく怖かった。

(26) ハナコノ　タメニ　シテ　ヤラズ
hanako=no　*tame=ni*　*si-te*　*jara-zu*
花子=GEN　ため=DAT　する-SEQ　BEN-VOL
花子のためにしてやろう。

3.6　格

格の種類と主な機能を表 6 に示す。

[22] 節を承けることも可能だと思われるが未確認。

表 6　格の種類と主な機能

	形式	主な機能・意味役割
主格	ガ *=ŋa*, ノ *=no*	自動詞文・他動詞文の主語，感情・欲求の対象
属格	ノ *=no*, ガ *=ŋa*	連体句の形成
対格	オ *=o*（前接母音による異形態あり）	他動詞文の直接目的語
与格	ニ *=ni*	複他動詞文の間接目的語，移動の目標
向格	エ・イ *=e/i*, サ *=sa*	移動の目標
具格	デ *=de*	道具・手段，動作の場所
奪格	（ッ）カラ *=(Q)kara*	空間・時間上の起点
限定格	マデ *=made*	空間・時間上の限界
共格	ト *=to*	共同相手
比較格	ヨリ *=jori*	比較基準

3.6.1　主格

自動詞文および形容詞文・名詞述語文の主語，他動詞文の主語は，助詞ガ *=ŋa* で表される（例(27)～(30)）。主語を助詞ノ *=no* で表すことができるのは，(a) 連体節の主語，(b) 2 人称代名詞オイシ（単数）とオンダチ（複数），という場合に限られ，それらの場合もガも可である（例(31)～(33)）。主題主語の場合はワ *=wa* が付く（7.2.1）。ガは(34)のように感情・欲求の対象を表すこともあるが，これは対格でも表すことができる。

(27)　タローガ　　イケデ　　オヨイデルニ
taroo=ŋa　　*ike=de*　　*ojoi-de-ru=ni*
太郎=NOM　　池=INS　　泳ぐ-CONT-NPST=SFP
太郎が池で泳いでいるよ。

(28)　キガ　　ブッタオレテールニ
ki=ŋa　　*buQ-taore-tee-ru=ni*
木=NOM　　EMPH-倒れる-CONT-NPST=SFP
木が倒れているよ。

(29)　ユーヤケデ　　ソラガ　　アカイヨ。
juujake=de　　*sora=ŋa*　　*aka-i=jo*
夕焼け=INS　　空=NOM　　赤い-NPST=SFP
夕焼けで空が赤いよ。

(30)　タローガ　　オモチャー　　ブッコワイトーニ
taroo=ŋa　　*omocjaa*　　*buQ-kowai-too=ni*
太郎=NOM　　おもちゃ.ACC　　EMPH-壊す-PST=SFP
太郎がおもちゃを壊したよ。

(31)　ソリャー　　{オレノ／オレガ}　　カイトー　　ジダヨ
sorjaa　　*{ore=no / ore=ŋa}*　　*kai-too*　　*zi=da=jo*
それ.TOP　　{私=NOM / 私=NOM}　　書く-PST　　字=COP.NPST=SFP

それは私の書いた字だよ。

(32) アノ　カショーワ　｛オイシノ／オイシガ｝　クットーカ
ano　*kasjoo=wa*　*{oisi=no / oisi=ŋa}*　*kuQ-too=ka*
あの　菓子.ACC=TOP　{2=NOM / 2=NOM}　食う-PST=QP
あの菓子はあなたが食ったのか？

(33) アノ　カショーワ　｛オンダチノ／オンダチガ｝　クットーカ
ano　*kasjoo=wa*　*{ondaci=no / ondaci=ŋa}*　*kuQ-too=ka*
あの　菓子.ACC=TOP　{2.PL=NOM / 2.PL=NOM}　食う-PST=QP
あの菓子はあなたたちが食ったのか？

(34) コミジカイ　ヒモガ　ホシー
ko-mizika-i　*himo=ŋa*　*hosi-i*
DIM-短い-NPST　紐=NOM　欲しい-NPST
少し短い紐が欲しい。

3.6.2　属格

名詞句どうしの連体修飾関係を表す属格には助詞ノ *=no* と助詞ガ *=ŋa* がある。(35)～(41)に示すように，ガは修飾名詞句（N1）が有生名詞（典型的には人名詞）の場合にのみ用いられる。人名詞でも違いがあり，1 人称代名詞，2 人称代名詞ワレ（SG）・ワイラ（PL）とウヌ（SG）・ウヌイラ（PL）はノよりもガをとりやすいのに対し，2 人称代名詞の相対的に丁寧な形オイシ（SG）・オンダチ（PL）はガをとりにくい（例(36)）[23]。親族名詞ではアニー *anii*（兄）・アネー *anee*（姉）がガをとりやすいのに対し，オトー *otoo*（父）・オカー *okaa*（母）など他の親族名詞はガがとりにくい（例(37)）。また，N1 と N2（被修飾名詞句）の意味関係は，厳密な意味での所有関係に限るわけではなく，例えば(40)のように N1 が N2 の対象・材料を表す場合にもガが使えるが，(41)のような同格の場合にはガが不適格となる[24]。

(35) オレガ　テワ　ヨゴレテ　イルヨ
ore=ŋa　*te=wa*　*joŋore-te*　*i-ru=jo*
1=GEN　手=TOP　汚れる-SEQ　CONT-NPST=SFP
私の手は汚れているよ。【分離不可能所有】

(36) ｛ワレガ／?ワレノ／?オイシガ／オイシノ｝　アニーカ
{ware=ŋa / ?ware=no / ?oisi=ŋa / oisi=no}　*anii=ka*
{2=GEN / 2=GEN / 2=GEN / 2=GEN }　兄=QP

[23] 話者によって不適格と判断されたり，聞いて容認はするが自身の発話ではノが現れたりする。
[24] 属格にノとガ（ないしガ）の 2 つがあり，そのうちガには，修飾名詞句の有生性や，修飾名詞句と被修飾名詞句の意味関係において制限があるという属格体系は，茨城県水海道方言（佐々木 2004: 第 2 章）など複数の日本語方言に観察される。さらに奈良田方言では，名詞句の有生階層（Silverstein 1976，角田 2009: 第 4 章）において同じ段階に位置づけられる語どうしでガのとりやすさに差があることになる。

（あの人は）｛お前の／あなたの｝兄か？【分離可能所有（人間関係）】

(37) ｛アネーガ／?アネーノ／?オカーガ／オカーノ｝ テワ イカイナー

{anee=ŋa / ?anee=no / ?okaa=ŋa / okaa=no } *te=wa* *ika-i=naa*

{姉=GEN / 姉=GEN / 母=GEN / 母=GEN} 手=TOP 大きい-NPST=SFP

｛お姉さんの／お母さんの｝手は大きいなあ。【分離不可能所有】

(38) トナリノ ｛コガ／コノ｝ テモ ヨゴレテールヨ

tonari=no *{ko=ŋa / ko=no}* *te=mo* *joŋore-tee-ru=jo*

隣=GEN {子=GEN / 子=GEN} 手=ADD 汚れる-CONT-NPST=SFP

隣の子の手も汚れているよ。【分離不可能所有】

(39) アノ ｛イェーノ／*イェーガ｝ マド

ano *{jee=no / *jee=ŋa}* *mado*

あの {家=GEN / 家=GEN} 窓

あの家の窓 【分離不可能所有】

(40) アネーガ シャシンガ デテ キトーヨー

anee=ŋa *sjasiɴ=ŋa* *de-te* *ki-too=joo*

姉=GEN 写真=NOM 出る-SEQ 来る-PST=SFP

お姉さんの写真が出てきたよ。【対象・材料】

(41) コレガ ｛アネーノ／*アネーガ｝ ハナコダヨ

kore=ŋa *{anee=no / *anee=ŋa}* *hanako=da=jo*

これ=NOM {姉=GEN / 姉=GEN} 花子=COP.NPST=SFP

これが姉の花子だよ。【同格】

3.6.3 対格

他動詞文の直接目的語は助詞オ =*o* で表される。ただし，目的語名詞 2 モーラ以上かつ短母音 i, e で終わる場合はその母音と融合して (C)joo となり，目的語名詞 2 モーラ以上かつ短母音 u, o, a で終わる場合はその母音を長音化して実現することが多い。(42)は目的語名詞がテガミ *teŋami*, (43)はウエ *ue*，(44)はイヌ *inu*，上掲(30)はオモチャ *omocja* の例である。稀に直接目的語が無助詞となることがあるが，名詞末母音の長音化がぞんざいな発話で十分に実現しなかったと解される。また，直接目的語が主題となったときは，目的語名詞に主題助詞ワ =*wa* が直接付くこともあるが，上掲(32)(33)のカショーワのように対格の後にワが付くこともある。直接目的語にとりたて助詞モが付く場合も(45)のように同様である。

(42) ｛テガミョー／テガミオ｝ ヨンドー

{teŋamjoo / teŋami=o} *joɴ-doo*

{手紙.ACC / 手紙=ACC} 読む-PST

手紙を読んだ。

(43) ツクエノ　ウヨー　ヨゴイトー
tukue=no　*ujoo*　*joŋoi-too*
机=GEN　上.ACC　汚す-PST
机の上を汚した。

(44) イヌー　オイカケル
inuu　*oi+kake-ru*
犬.ACC　追う+かける-NPST
犬を追いかける。

(45) ムギデ　コージオモ　ツクットードーヨ
muŋi=de　*koozi=o=mo*　*tukuQ-too=doo=jo*
麦=INS　麹=ACC=ADD　作る-PST=COP.NPST=SFP
麦で麹も作ったのだよ。

対格は移動動詞文において移動の経路や移動の起点も表す（例(46)(47)）。また，自動詞使役文における動作主体も表す（7.4.1）。

(46) タローワ　ハシオ　ワタッテトーニ
taroo=wa　*hasi=o*　*wataQ-te-too=ni*
太郎=TOP　橋=ACC　渡る-CONT-PST=SFP
太郎は橋を渡っていたよ。

(47) タローワ　バスー　オリトーニ
taroo=wa　*basuu*　*ori-too=ni*
太郎=TOP　バス.ACC　降りる-PST=SFP
太郎はバスを降りたよ。

3.6.4　与格と向格

「やる」など複他動詞文の間接目的語（授与の相手）は(48)のように助詞ニ =*ni* で表される。これを与格とする。与格ニは共通語の「に」と同様にさまざまな意味を表す。(49)は移動の目標，(50)は動作「会う」の対象，(51)は変化の結果，(52)は授益文の受益者，(53)は存在場所，(54)は所有者，(55)は経験者，(56)のオヤニは情報の授与者，(57)は事態の時間の例である。ほかに，使役文・受納文（「てもらう」相当文）の動作主（7.4.1, 7.4.3），受身文の動作主（7.4.2）でも用いられる。

(48) ソノ　カショー　オレニ　クリョー
sono　*kasjoo*　*ore=ni*　*kurjoo*
その　菓子.ACC　1=DAT　与える.IMP

その菓子を私にくれ。

(49) ユーカタ　コーフニ　ツイトー

juukata　*koohu=ni*　*tui-too*

夕方　甲府=DAT　着く-PST

夕方甲府に着いた。

(50) タローワ　ガッコーデ　トモダチニ　アットーヨ

taroo=wa　*gaQkoo=de*　*tomodaci=ni*　*aQ-too=jo*

太郎=TOP　学校=INS　友達=DAT　会う-PST=SFP

太郎は学校で友達に会ったよ。

(51) タローワ　センセーニ　ナットー

taroo=wa　*seɴsee=ni*　*naQ-too*

太郎=TOP　先生=DAT　なる-PST

太郎は先生になった。

(52) タローワ　シャテーニ　エボンオ　ヨンデ　ヤットーカ

taroo=wa　*sjatee=ni*　*eboɴ=o*　*joɴ-de*　*jaQ-too=ka*

太郎=TOP　弟=DAT　絵本=ACC　読む-SEQ　BEN-PST=QP

太郎は弟に絵本を読んでやったか？

(53) タローワ　ドコニ　イルー

taroo=wa　*doko=ni*　*i-ruu*

太郎=TOP　どこ=DAT　いる-NPST

太郎はどこにいる？

(54) タローニャー　ヨメガ　イノー

taroo=njaa　*jome=ŋa*　*i-noo*

太郎=DAT.TOP　嫁=NOM　いる-NEG.NPST

太郎には嫁がいない。

(55) タローニャー　ウラガ　キモチワ　ワカラノーカ

taroo=njaa　*ura=ŋa*　*kimoci=wa*　*wakara-noo=ka*

太郎=DAT.TOP　私=GEN　気持ち=TOP　分かる-NEG.NPST=QP

太郎には私の気持ちが分からないのか。（=(5)）

(56) タローワ　シャテーガ　ビョーキニ　ナットー　コトー　オヤニ　キートーカ

taroo=wa　*sjatee=ŋa*　*bjooki=ni*　*naQ-too*　*koto=o*　*oja=ni*　*kii-too=ka*

太郎=TOP　弟=NOM　病気=DAT　なる-PST　こと=ACC　親=DAT　聞く-PST=QP

太郎は弟が病気になったことを親に聞いたのか？

(57) タローワ　サンジニ　イェーサ　モドットーカ

taroo=wa　*saɴ-zi=ni*　*jee=sa*　*modoQ-too=ka*

太郎=TOP　三-CLF=DAT　家=ALL　戻る-PST=QP

太郎は 3 時に家に戻ったのか？

移動の目標は助詞エ・イ =*e/i*，または，サ =*sa* でも表される（例(58)-(65)）。これらの助詞を向格とする。イは(59)(60)のように短母音の後に現れることがある形で，エの自由変異と解釈できる。サは(61)～(65)に示すように，長母音・二重母音・撥音，つまり重音節にのみ後接する（義務的ではなくニやエも可）[25]。向格は，基本的に移動の目標を表す。それとの連続性が高い間接目的語（例(63)）や「合う」の対象（例(59)）では容認され，使われることもあるが，移動の目標の意から離れると容認されにくくなる。例えば，上の(51)(52)(54)(55)はサの用いられる音韻環境だが，話者はサを不適格と判断する。

(58) アシタモ　ココエ　クルカ
asita=mo　*koko=e*　*ku-ru=ka*
明日=ADD　ここ=ALL　来る-NPST=QP
明日もここに来るか？

(59) ジコイ　デッカーセトーカ
ziko=i　*deQkaase-too=ka*
事故=ALL　でくわす-PST=QP
（太郎は）事故にあったのか？

(60) タローワ　イスイ　セワットー
taroo=wa　*isu=i*　*sewaQ-too*
太郎=TOP　椅子=ALL　座る-PST
太郎は椅子に座った。

(61) ｛カーエ／カーサ｝　イットー
{kaa=e / kaa=sa}　*iQ-too*
{川=ALL / 川=ALL}　行く-PST
川に行った。

(62) タローワ　｛トーキョーエ／トーキョーサ｝　ツイトー
taroo=wa　*{tookjoo=e / tookjoo=sa}*　*tui-too*
太郎=TOP　{東京=ALL / 東京=ALL}　着く-PST
太郎は東京に着いた。

(63) タローワ　シャテーサ　ゼニオ　オクットーカ
taroo=wa　*sjatee=sa*　*zeni=o*　*okuQ-too=ka*
太郎=TOP　弟=ALL　お金=ACC　送る-PST=QP
太郎は弟にお金を送ったのか？

[25] 小林隆（2004: 414-418）に，サの音韻環境と意味条件についてほぼ同趣旨の記述がある。ただし小林はエには触れておらず，またニとイを意味的に同じと捉えている。

(64) ソノ　ウチガイサ　サツマイモー　イレテ　モッテ　イカザー
sono　*uciŋai=sa*　*satumaimo=o*　*ire-te*　*moQ-te*　*ika-zaa*
その　弁当袋=ALL　さつま芋=ACC　入れる-SEQ　持つ-SEQ　行く-HOR
その弁当袋にさつま芋を入れて持っていこう。

(65) コビンサ　デキモノガ　デキトーナー
kobiɴ=sa　*dekimono=ŋa*　*deki-too=naa*
ひたい=ALL　できもの=NOM　出来る-PST=SFP
ひたいにできものができたな。

3.6.5　その他の格

具格デ *=de* は，(66)(67)のように材料・道具や手段のほか，(68)のように動作の場所を表す。

(66) スギータデ　ハコー　ツクル
suŋiita=de　*hakoo*　*tukur-u*
杉板=INS　箱.ACC　作る-NPST
杉板で箱を作る。

(67) ヒトリデ　アスビー　イッテモ　タノシカー　ナイ
hitori=de　*asubi=i*　*iQ-temo*　*tanosi-kaa*　*na-i*
一人=INS　遊び=ALL　行く-CONC　楽しい-ADVL.TOP　NEG-NPST
一人で遊びに行っても，楽しくない（lit. 楽しくはない）。

(68) タローワ　イマ　トナリノ　ヘヤデ　ホンオ　ヨンデールヨ
taroo=wa　*ima*　*tonari=no*　*heja=de*　*hoɴ=o*　*joɴ-dee-ru=jo*
太郎=TOP　今　隣=GEN　部屋=INS　本=ACC　読む-CONT-NPST=SFP
太郎は今，隣の部屋で本を読んでいるよ。

奪格（ッ）カラ *=(Q)kara* は，(69)-(71)のように空間・時間上の起点を表す。時間上の起点を表す場合，(71)のように動詞の中止形テ *-te* に付くこともできる。得られた例では空間上の起点は促音なしのカラのみ，時間上の起点は促音ありのッカラが多い（時間上の起点で促音なしの形は後掲(73)）。

(69) イドカラ　ミズー　クンデ　クル
ido=kara　*mizuu*　*kuɴ-de*　*ku-ru*
井戸=ABL　水.ACC　汲む-SEQ　来る-NPST
井戸から水を汲んでくる。

(70) ヒルマッカラ　アメガ　フルラ
hiruma=Qkara　*ame=ŋa*　*hur-u=ra*
昼=ABL　雨=NOM　降る-NPST=INFR
昼から雨が降るだろう。

(71) ミヅデ　ヌライテッカラ　フク
midu=de　*nurai-te=Qkara*　*huk-u*
水=INS　濡らす-SEQ=ABL　拭く-NPST
水で濡らしてから拭く。

限定格マデ =*made* は，(72)-(74)のように空間・時間上の限界（終点）を表す。時間上の限界を表す場合は，動詞非過去形ル -*ru* にも付く。

(72) カジカザーマデ　ニモツー　カトイデ　イットーヨ
kazikazaa=made　*nimotuu*　*katoi-de*　*iQ-too=jo*
鰍沢=LMT　荷物.ACC　担ぐ-SEQ　行く-PST=SFP
鰍沢（地名）まで荷物を担いで行ったよ。

(73) アサカラ　バンマデ　ソトデ　アソンデータヨ
asa=kara　*baɴ=made*　*soto=de*　*asoɴ-dee-ta=jo*
朝=ABL　晩=LMT　外=INS　遊ぶ-CONT-PST=SFP
朝から晩まで外で遊んでいたよ。

(74) タローガ　クルマデ　マチテ　イル
taroo=ŋa　*ku-ru=made*　*maci-te*　*i-ru*
太郎=NOM　来る-NPST=LMT　待つ-SEQ　CONT-NPST
太郎が来るまで待っている。

共格ト =*to* は，(75)(76)のように動作や状態の共同相手を表す。

(75) タローワ　シャテート　アスンデール
taroo=wa　*sjatee=to*　*asuɴ-dee-ru*
太郎=TOP　弟=COM　遊ぶ-CONT-NPST
太郎は弟と遊んでいる。

(76) オヤト　コイガ　ニテールニ
oja=to　*koi=ŋa*　*ni-tee-ru=ni*
親=COM　声=NOM　似る-CONT-NPST=SFP
親と声が似ているよ。

比較格ヨリ =*jori* は(77)のように比較基準を表す。

(77) コリャー　　アレヨリ　　ヌコイ
korjaa　　*are=jori*　　*nuko-i*
これ.TOP　　あれ=CMP　　小さい-NPST
これはあれより小さい。

4. 指示語・疑問語

指示語は共通語と同様にコ系・ソ系・ア系の対立を持つ。また，それらに対応してド系の疑問語がある。品詞的には代名詞に限らず副詞，連体詞にわたる。これらを表 7 に記す。

表 7　指示語と疑問語の体系

	指示語			疑問語
	コ系	ソ系	ア系	ド系
代名詞［物］	コレ *kore*	ソレ *sore*	アレ *are*	ドレ *dore*
［物．選択的］	コイツ *koitu*	ソイツ *soitu*	アイツ *aitu*	ドイツ *doitu*
［場所］	ココ *koko*	ソコ *soko*	アソコ *asoko*	ドコ *doko*
［方向］	コッチ *koQci*	ソッチ *soQci*	アッチ *aQci*	ドッチ *doQci*
連体詞［指示］	コノ *kono*	ソノ *sono*	アノ *ano*	ドノ *dono*
形容名詞［様子］	コガー *koŋaa*	ソガー *soŋaa*	アガー *aŋaa*	ドガー *doŋaa*
副詞［様子］	コー *koo*	ソー *soo*	アー *aa*	ドー *doo*

(78)(79)(80)に物代名詞，(81)(82)に場所代名詞，(83)に方向代名詞，(84)(85)に連体詞，(86)(87)に形容名詞，(88)に副詞の例を示す。物代名詞｛コ・ソ・ア・ド｝レはぞんざいな表現として人を指すこともできる（例(80)）。形容名詞｛コ・ソ・ア・ド｝ガーは，コピュラ副詞形ニ =*ni* を付けて副詞句となる用法（例(86)）や属格助詞ノ =*no* を付加して連体句となる用法（例(87)）がある[26]。

コ系・ソ系・ア系の使い分けは共通語と同様である。すなわち，現場指示の場合，コ系は話し手側の事物を指し（例(78)(88)），ソ系は聞き手側の事物（例(81)(86)），あるいは，話し手・聞き手が近くにいる場合に両者から見て中間的な距離の事物を指す（例(82)）。ア系は話し手・聞き手両者にとって遠い事物を指す（例(80)(83)）。前文脈の語句を指す場合（いわゆる文脈指示の場合）はソ系が使われる（例(79)(84)）。心内に想起する事物を指す場合はア系が使われる（例(85)）。

(78) コリョー　　ミロ
korjoo　　*mi-ro*
これ.ACC　　見る-IMP

[26] 奈良田方言では，形容名詞（いわゆる形容動詞語幹）が連体句となる場合は普通名詞と同じ属格が付く（6.3）。

［話し手自身の近くの物を指して］これを見ろ。

(79) ソリャー　ヨカットーニ

sorjaa　*jo-kaQtoo=ni*

それ.TOP　良い-PST=SFP

［「うちの孫が結婚したよ」と言われて］それはよかったよ。

(80) アレガ　アニーワ　ドノ　ヒトズラ

are=ŋa　*anii=wa*　*dono*　*hito=zura*

あれ=GEN　兄=TOP　どの　人=COP.INFR

［遠くの人を指して］あいつの兄はどの人か？（lit. どの人だろう）

(81) ナゼ　ソコイ　タッテール

naze　*soko=i*　*taQ-tee-ru*

なぜ　そこ=ALL　立つ-CONT-NPST

なぜそこに立っている？

(82) ソコデ　マガラダー

soko=de　*maŋara-daa*

そこ=INS　曲がる-HOR

［話し手と聞き手が一緒に歩いている。少し先の角を指して］そこで曲がろう。

(83) オトカー　アッチー　アツバレー

otokaa　*aQci=i*　*atubar-ee*

男.TOP　あっち=ALL　集まる-IMP

［遠くの方を指して］男はあっちに集まれ。

(84) ソノ　シター　ダレ

sono　*sitaa*　*dare*

その　人.TOP　誰

［相手が誰かの話をしているのを聞いて］その人は誰？

(85) キニョー　オイシガ　オソイテ　クレトー　アノ　ホン　ハイ　ヨンダヨ

kinjoo　*oisi=ŋa*　*osoi-te*　*kure-too*　*ano*　*hoN=Ø*　*hai*　*joN-da=jo*

昨日　2=NOM　教える-SEQ　BEN-PST　あの　本=TOP　もう　読む-PST=SFP

昨日あなたが教えてくれたあの本はもう読んだよ。

(86) ソガーニ　オコッテ　ドー　シトー

soŋaa=ni　*okoQ-te*　*doo*　*si-too*

そのよう=COP.ADVL　怒る-SEQ　どう　する-PST

そんなに怒ってどうしたの？

(87) オイシャー　ドガーノ　イェーニ　スミタイヅラカ

oisjaa　*doŋaa=no*　*jee=ni*　*sumi-ta-i=dura=ka*

2.TOP　どのよう=GEN　家=DAT　住む-DES-NPST=COP.INFR=QP

あなたはどんな家に住みたいの？（lit. 住みたいのだろうか）

(88) コー　シデー
koo　*si-dee*
こう　する-IMP.POL
［話し手自身が動作を例示して］こうしなさい。

表 7 以外の疑問語として，人を表すダレ *dare*（3.1 も参照），物を表すナニ *nani*，時を表すイツ *itu*，数を表すイクツ *ikutu*，値段を表すイクラ *ikura*，時刻を表すイクジ *iku-zi*，理由を表すナンドーデ *naɴdoode*，ナンデ *naɴde*，ナゼ *naze*，ドーデ *doode* がある[27]。手段は「ドー シテ」*doo si-te*，「ドガーニ シテ」*dogaa=ni si-te* と，迂言的に表される。(89)にイクジ，(90)にナンドーデ，(91)に「ドガーニ シテ」の例をあげる。

(89) イクジニ　オキトーカ
iku-zi=ni　*oki-too=ka*
いくつ-CLF=DAT　起きる-PST=QP
何時に起きたの？

(90) ナンドーデ　ソガーニ　オコッテール
naɴdoode　*soŋaa=ni*　*okoQ-tee-ru*
なぜ　そのよう=COP.ADVL　怒る-CONT-NPST
なぜそんなに怒っているの？

(91) ドガーニ　シテ　ソノ　イェーオ　メッケトー
doŋaa=ni　*si-te*　*sono*　*jee=o*　*meQke-too*
どのよう=COP.ADVL　する-SEQ　その　家=ACC　見つける-PST
どうやってその家を見つけたの？

また，ダガ *daŋa* という人を表す疑問連体詞がある（例(92)）。疑問代名詞*ダ **da* に属格ガ *=ŋa*（3.6.2 参照）が付いたものだと思われるが，共時的には連体詞として一語化していると思われる。ただし，これにもとづく複数の人を表す疑問代名詞ダガトー *daŋatoo* もある（3.1）。

(92) ダガ　タノミー
daŋa　*tanomii*
誰の　頼み
誰の頼み？

[27] ナンドーデ，ナンデは語彙化しているとみなすが，通時的には *naɴ=doo=de*（何=COP.NPST=CSL），*naɴ=de*（何=INS）という構造だったと思われる。

疑問語と助詞カ =*ka* とで指示対象が不特定であることを表す名詞句を作る。カと格助詞の承接順序が格助詞によって異なる。確認が不足しているが，主格は「N=カ=ガ」の例しかなく，対格は「N=オ=カ」である（例(93)(94)）。与格は「N=カ=ニ」「N=ニ=カ」両方の例がある（例(95)）。

(93) ダレカガ　セキョー　シテールヨ
dare=ka=ŋa　*sekjoo*　*si-tee-ru=jo*
誰=QP=NOM　咳.ACC　する-CONT-NPST=SFP
誰かが咳をしているよ。

(94) サライ　ナニオカ　カブセロ
sara=i　*nani=o=ka*　*kabuse-ro*
皿=ALL　何=ACC=QP　かぶせる-IMP
皿に何かをかぶせろ。

(95) a. タローワ　ダレカニ　アショー　フンヅケラレトー
taroo=wa　*dare=ka=ni*　*asjoo*　*huɴ+duke-rare-too*
太郎=TOP　誰=QP=DAT　足.ACC　踏む+つける-PASS-PST
太郎は誰かに足を踏んづけられた。

b. タローワ　ダレニカ　サイフー　ヌスマレトーニ
taroo=wa　*dare=ni=ka*　*saihuu*　*nusum-are-too=ni*
太郎=TOP　誰=DAT=QP　財布.ACC　盗む-PASS-PST=SFP
太郎は誰かに財布を盗まれたよ。

5. 動詞・動詞句

5.1 動詞の活用

動詞の活用型と主な活用形を表 8 に示す[28]。

規則的な活用型は子音語幹型（C 型）と母音語幹型（V 型）の 2 つ，不規則動詞はクル *ku-ru*（来る）とスル *su-ru*（する）である。表 8 では C 型をカク *kak-u*（書く），V 型をミル *mi-ru*（見る）で代表させた。C 型の語幹末子音は k, ŋ, s, t, n, b, m, r, w である。C 型の動詞（C 動詞）にはカクのほか，ダス *das-u*（出す），ノム *nom-u*（飲む）など，おおよそ共通語の C 動詞（五段動詞）が所属する。V 型の語幹末母音は i と e である。V 型の動詞（V 動詞）にはミル *mi-ru*（見る），オキル *oki-ru*（起きる），ネル *ne-ru*（寝る），アケル *ake-ru*（開ける）など，おおよそ共通語の V 動詞（上一段・下一段動詞）が所属する。

C 動詞が中止形テ *-te* やそれに由来すると思われる形（表 8 では過去形トー *-too* とタ *-ta*，禁止形チョ（ンナ・デ）*-cjo(-ɴna/de)*，逆接仮定形テモ *-temo*，継続形テイル *-te i-ru*，テール *-tee-ru*）

[28] ここでは屈折のほか，接語の付加，受身・使役など生産性の高い文法的な派生を含めて「活用」とする。また，動詞語幹と接辞の境界は，*kak-u/mi-ru*, *kaka-noo/mi-noo* のように V 型動詞を基準に認定する。

表 8　動詞の活用

	C 型 *kak-*（書く）	V 型 *mi-*（見る）	不規則 *ku-*（来る）	不規則 *si-, su-*（する）
基本	カク *kak-u*	ミル *mi-ru*	クル *ku-ru*	シル *si-ru* スル *su-ru*
過去	カイトー *kai-too* カイタ *kai-ta*	ミトー *mi-too* ミタ *mi-ta*	キトー *ki-too* キタ *ki-ta*	シトー *si-too* シタ *si-ta*
意志	カカズ *kaka-zu* カカス *kaka-su*	ミズ *mi-zu* ミス *mi-su*	コズ *ko-zu* コス *ko-su*	シズ *si-zu* シス *si-su*
勧誘	カカザー *kaka-zaa*	ミザー *mi-zaa*	コザー *ko-zaa*	シザー *si-zaa* セザー *se-zaa*（稀）
推量	カクラ *kak-u=ra*	ミルラ *mi-ru=ra*	クルラ *ku-ru=ra*	シルラ *si-ru=ra* スルラ *su-ru=ra*
過去 推量	カイツラ *kai-tura* カイタラ *kai-ta=ra*	ミツラ *mi-tura* ミタラ *mi-ta=ra*	キツラ *ki-tura* キタラ *ki-ta=ra*	シツラ *si-tura* シタラ *si-ta=ra*
命令	カケ *kak-e* カカンナ *kaka-ɴna* カカデ *kaka-de*	ミロ *mi-ro* ミンナ *mi-ɴna* ミデ *mi-de*	コー *koo* コンナ *ko-ɴna* コデ *ko-de*	シロ *si-ro* シンナ *si-ɴna* シデ *si-de*
禁止	カイチョ *kai-cjo* カイチョンナ *kai-cjoɴna* カイチョデ *kai-cjode*	ミチョ *mi-cjo* ミチョンナ *mi-cjoɴna* ミチョデ *mi-cjode*	キチョ *ki-cjo* キチョンナ *ki-cjoɴna* キチョデ *ki-cjode*	シチョ *si-cjo* シチョンナ *si-cjoɴna* シチョデ *si-cjode*
中止	カイテ *kai-te*	ミテ *mi-te*	キテ *ki-te*	シテ *si-te*
仮定	カケバ *kak-eba*	ミレバ *mi-reba*	クレバ *ku-reba*	スレバ *su-reba*
逆接 仮定	カイテモ *kai-temo*	ミテモ *mi-temo*	キテモ *ki-temo*	シテモ *si-temo*
否定	カカノー *kaka-noo* カカヌ *kaka-nu*	ミノー *mi-noo* ミヌ *mi-nu*	コノー *ko-noo* コヌ *ko-nu*	シノー *si-noo* セヌ *se-nu*
使役	カカセル *kak-ase-ru*	ミサセル *mi-sase-ru*	キサセル *ki-sase-ru* コサセル *ko-sase-ru*	（サセル *sase-ru*）
受身	カカレル *kak-are-ru*	ミラレル *mi-rare-ru*	キラレル *ki-rare-ru*	（サレル *sare-ru*）
可能	カケール *kak-ee-ru* カケル *kak-e-ru*	ミラレル *mi-rare-ru* ミレル *mi-re-ru*	キラレル *ki-rare-ru* コレル *ko-re-ru*	（デキル *deki-ru*） （デル *de-ru*）
継続	カイテ イル *kai-te i-ru* カイテール *kai-tee-ru*	ミテ イル *mi-te i-ru* ミテール *mi-tee-ru*	キテ イル *ki-te i-ru* キテール *ki-tee-ru*	シテ イル *si-te i-ru* シテール *si-tee-ru*
希望	カキタイ *kaki-ta-i*	ミタイ *mi-ta-i*	キタイ *ki-ta-i*	シタイ *si-ta-i*

（　）内は補充法による形

に由来する形をとるときは語幹末子音が保たれないいわゆる音便形をとり，また，一部において接辞冒頭の t が d になる。表 9 に C 動詞の語幹末子音別の音便形のつくりかたと語例を示す。k 動詞の音便形の例外は，表に示したイク *ik-u*（行く）のほか，アリク *arik-u*（歩く）がある（例(96)）。s 動詞の音便形の例外は，表に示したオス *os-u*（押す）のほか，マス *mas-u*（増す），ムス *mus-u*（蒸す），ケス *kes-u*（消す），そしてマース *maas-u*（回す），トース *toos-u*（通す），

カイス *kais-u*（返す）など s の前が長母音か二重母音の語がある（話者 E の場合。小西 2002）。t 動詞の音便形の例外は，現在のところ，表に示したマツ *mat-u*（待つ）のみ得ている（例(97)）。

表 9　C 動詞の音便形のつくりかた

語幹末	音便形のつくりかた	語例（基本ル *-ru* 形，過去トー *-too* 形）
k	一般：k を i に 例外：k を Q に	カク *kak-u*（書く），カイトー *kai-too*（書いた） イク *ik-u*（行く），イットー *iQ-too*（行った）
ŋ	ŋ を i に，接辞の t を d に	カグ *kaŋ-u*（嗅ぐ），カイドー *kai-doo*（嗅いだ）
s	一般：s を i に 例外：i を付加	ダス *das-u*（出す），ダイトー *dai-too*（出した） オス *os-u*（押す），オシトー *osi-too*（押した）
t	一般：t を Q に 例外：i を付加	タツ *tat-u*（立つ），タットー *taQ-too*（立った） マツ *mat-u*（待つ），マチトー *maci-too*（待った）
n	n を ɴ に，接辞の t を d に	シヌ *sin-u*（死ぬ），シンドー *siɴ-doo*（死んだ）
b	b を ɴ に，接辞の t を d に	トブ *tob-u*（飛ぶ），トンドー *toɴ-doo*（飛んだ）
m	m を ɴ に，接辞の t を d に	ノム *nom-u*（飲む），ノンドー *noɴ-doo*（飲んだ）
r	r を Q に	キル *kir-u*（切る），キットー *kiQ-too*（切った）
w	w を Q に	コー *koo* //kaw-u//（買う），カットー *kaQ-too*（買った）

(96)　オッカナイデ　　シャドーオ　　アリッチョヨ。
　　oQkana-i=de　　*sjadoo=o*　　*ariQ-cjo=jo*
　　怖い-NPST=CSL　　車道=ACC　　歩く-PROH=SFP
　　怖いから，車道を歩くなよ。

(97)　タローガ　　クルマデ　　マチテ　　イル
　　taroo=ŋa　　*ku-ru=made*　　*maci-te*　　*i-ru*
　　太郎=NOM　　来る-NPST=LMT　　待つ-SEQ　　CONT-NPST
　　太郎が来るまで待っている。（=(74)）

w 動詞で w の前が a, o の動詞は，コー *koo*（買う），ウトー *utoo*（歌う），ヨー *joo*（酔う）などオ段長音形となる。また，w の前が a, o の動詞の命令形はカイ *kai* //kaw-e//（買え），ウタイ *utai* //uta-e//（歌え）となる。これらは奈良田方言の二重母音の制約による（2.1.1）。

V 動詞ではクレル *kure-ru*（くれる）の命令形がクリョー *kurjoo* と不規則な形をとる。

不規則動詞クル・シルは，V 型に準じた活用をするが語幹がそれぞれ *ku/ki/ko*，*si/su/se* と交替し，また，一部の活用形は接辞も含めて不規則な形をとる。クルは命令形がコー *koo* となる点で不規則でかつ共通語とも異なる。また，使役形・受身形・可能形の語幹が *ki* となる点で共通語より V 型への類推変化が進んだ状態を呈している。シルは基本形・意志形・勧誘形の語幹が *si* となる点で，やはり V 型への類推変化が進んだ状態を呈している。

表 8 の活用形のうち，基本形～禁止形がそれ自体で主節の述語となる形である。過去形は 7.5，意志形・勧誘形は 7.6.6，推量形・過去推量形は 7.6.1，命令形・禁止形は 7.6.5 を参照。中止形～

逆接仮定形が連用従属節を作る形であり，8 節で触れる。否定形～希望形がさらにテンス等に応じて活用する形である。否定形ノー *-noo* は不規則な活用をする（7.3）。使役・受身・可能形は V 型，継続形テール *-tee-ru* は V 型，希望形タイ *-ta-i* は形容詞型の活用をする（それぞれ 7.4, 7.5, 6.2 参照）。

5.2　補助動詞を伴う動詞句

中止形テ *-te* の後に語彙的意味を希薄にした動詞を付加し全体で述語を構成する補助動詞構造として，(98)の形式を確認している。テイク・テクル・テミルの例を(99)-(101)にあげる。その他については(98)に記した節を参照。

(98) テ＋補助動詞

テイル *-te i-ru*：「～ている」。継続を表す（7.5 参照）

テヒッチモー *-te hiQ-cimoo* //-te hiQ-cimaw-u//, テシモー *-te simoo* //-te simaw-u//：

「～てしまう」　完了。事態に対する消極的評価を伴う（7.5 参照）

テヤル *-te jar-u*：「～てやる」　与益（主語視点）（7.4.3 参照）

テクレル *-te kure-ru*：「～てくれる」「～てやる」　与益（補語視点・主語視点）（7.4.3 参照）

テウケル *-te uke-ru*, テモロー *-te moroo* //-te moraw-u//：「～てもらう」　受益（7.4.3 参照）

テイク *-te ik-u*：「～ていく」　動作・状態を伴いながら基準点から遠ざかる。

テクル *-te ku-ru*：「～てくる」　動作・状態を伴いながら基準点に近づく。

テミル *-te mi-ru*：「～てみる」　試行。

(99)

ヤマイ	ドーグオ	モッテ	イク
jama=i	*dooŋu=o*	*moQ-te*	*ik-u*
山=ALL	道具=ACC	持つ-SEQ	行く-NPST

山に道具を持っていく。

(100)

メーラドー	アケテ	ハイッテ	コー
meerado=o	*ake-te*	*haiQ-te*	*koo*
格子戸=ACC	開ける-SEQ	入る-SEQ	来る.IMP

格子戸を開けて入って来い。

(101)

ワレガ	テマエノ	メデ	ミテ	ミロー
ware=ŋa	*temae=no*	*me=de*	*mi-te*	*mi-roo*
2=NOM	自分=GEN	目=INS	見る-SEQ	見る-IMP

お前が自分の目で見てみろ。

5.3　動詞を構成する接辞

動詞に付く強意接頭辞としてウッ *uQ-*，ブッ *buQ-*，ブン *buN-*，ヒッ *hiQ-* がある。これまでに得た動詞を(102)に，いくつかの動詞の例文を(103)-(107)にあげる。ウッ・ブッ・ブンは動詞「打つ」の，ヒッは動詞「引く」の i 形（いわゆる連用形）に由来するもので，共通語にもある接頭辞だが，共通語より生産性が高い。ブンダスの主要部ダスは他動詞だが，ブンダスは自動詞になっている。また，（ッテ）ヒッチモーは 5.2 で触れたテ＋補助動詞構造である[29]。

(102) 強意接頭辞の付いた動詞（自：自動詞，他：他動詞）

ウッ *uQ-*：ウッチヌ *uQ-cin-u* //uQ-sin-u//（自. 死ぬ）例(103)，ウッチル *uQ-ci-ru* //uQ-si-ru//（他. する）例(104)

ブッ *buQ-*：ブッコロブ *buQ-korob-u*（自. ぶっ転ぶ），ブッタオレル *buQ-taore-ru*（自. ぶっ倒れる），ブッコワス *buQ-kowas-u*（他. ぶっ壊す），ブッサロー *buQ-saroo* //buQ-saraw-u//（他. 打ちつける，叩く，殴る）例(105)，ブッタタク *buQ-tatak-u*（他. ぶったたく），ブッツケル *buQ-tuke-ru*（他. ぶっつける）

ブン *buN-*：ブンダス *buN-das-u*（自. 出かける）例(106)

ヒッ *hiQ-*：ヒッカギル *hiQ-kaŋir-u*（自.（日が）しずむ）例(107)，ヒッコボス *hiQ-kobos-u*（他. こぼす），ヒッパル *hiQ-par-u*（他. 引っ張る），ヒッパタク *hiQ-patak-u*（他. ひっぱたく），-テヒッチモー *-te hiQ-cimoo* //-te hiQ-cimaw-u//（補助動詞. ～てしまう）

(103) セミャー　チュード　ウッチヌ
semjaa　*cjuudo*　*uQ-cin-u*
蝉.TOP　すぐ　EMPH-死ぬ-NPST
蝉はすぐ死ぬ。

(104) タローワ　ヒトリデ　ナンデモ　ウッチルヨー
taroo=wa　*hitori=de*　*naN=demo*　*uQ-ci-ru=joo*
太郎=TOP　一人=INS　何=EXT　EMPH-する-NPST=SFP
太郎は一人で何でもするよ。

(105) マキダッポーデ　ブッサローゾ
makidaQpoo=de　*buQ-saroo=zo*
薪=INS　EMPH-たたく.NPST=SFP
［悪戯をした子供をおどして］薪で打ち付けるぞ。

(106) アシター　ブンダスー　ヤメトー
asitaa　*buN-dasuu*　*jame-too*
明日　出かける（EMPH-出す）.ACC　やめる-PST
明日出かけるのをやめた。

[29] 本動詞としての用例は未確認。

(107) タイヨーガ　ヤマノ　ムコーニ　ヒッカギッタ
taijoo=ŋa　*jama=no*　*mukoo=ni*　*hiQ-kaŋiQ-ta*
太陽=NOM　山=GEN　むこう=DAT　EMPH-しずむ-PST
太陽が山のむこうにしずんだ。

また，心情形容詞を動詞化する接尾辞ガル *-ŋar-u* がある（例(108)）。

(108) オッカナガル　シャテーニ　ツリバショー　アリカセトーヨ
oQkana-ŋar-u　*sjatee=ni*　*turibasjoo*　*arik-ase-too=jo*
怖い-VBL-NPST　弟=DAT　吊り橋.ACC　歩く-CAUS-PST=SFP
怖がる弟に吊り橋を歩かせたよ。

6. 形容詞・コピュラ

6.1 形容詞の活用

形容詞の活用型は一つである。表 10 に「赤い」を例として活用形を示す。

表 10　形容詞の活用

	アカ *aka-*（赤い）
基本	アカイ *aka-i*
過去	アカカットー *aka-kaQtoo* アカカッタ *aka-kaQta*
推量	アカイラ *aka-i=ra*
過去推量	アカカッツラ *aka-kaQtura*
中止	アカクテ *aka-kute*
仮定	アカケレバ *aka-kereba*
逆接仮定	アカクテモ *aka-kutemo*
否定	アカカー ナイ *aka-kaa na-i*
副詞	アカク *aka-ku*

過去形については 7.5，推量形・過去推量形については 7.6.1，中止形については 8.13，仮定形については 8.5 を参照。否定形は「接辞カー *-kaa* ＋補助形容詞ナイ *na-i*」という構造で表される。このカーは副詞形ク *-ku* に対比のとりたて助詞ワ *=wa* が付いた形である。奈良田方言ではワを伴うこの形が義務的で，共通語のように副詞形（いわゆる連用形）クに補助形容詞ナイが付いた形は用いられない。否定形は 7.3 で再度とりあげる。副詞形クは，(109)のような任意の副詞成分としても，(110)のような動詞ナルの必須補語としても用いられる。

(109) キノミデ　テガ　アカク　ソマットー
kinomi=de　*te=ŋa*　*aka-ku*　*somaQ-too*
木の実=INS　手=NOM　赤い-ADVL　染まる-PST

木の実で手が赤く染まった。

(110) イマ　インメーデ　ミガ　アカク　ナル

ima　*iɴmee=de*　*mi=ŋa*　*aka-ku*　*nar-u*

今　少し=COP.ADVL　実=NOM　赤い-ADVL　なる-NPST

もうすぐ実が赤くなる。

6.2　形容詞を構成する接辞

動詞から，希望を表す形容詞を派生する接尾辞にタイ *-ta-i* がある（例(111)）。また，接頭辞コ *ko-*が形容詞に付いて程度の小ささを表す例を得ているが，コの生産性については不明である（例(112)）。

(111)　アリョー　クイタイ

arjoo　*kui-ta-i*

あれ.ACC　食う-DES-NPST

あれ（ら）を食いたい。（=(14)）

(112)　コミジカイ　ヒモガ　ホシー

ko-mizika-i　*himo=ŋa*　*hosi-i*

DIM-短い-NPST　紐=NOM　欲しい-NPST

少し短い紐が欲しい。（=(34)）

6.3　名詞述語の形（コピュラの活用）

名詞述語の形（コピュラの活用）を，一般の名詞はガクセー *gakusee*（学生），形容名詞（いわゆる形容動詞語幹）はシズカ *sizuka*（静か）で代表させて表 11 に示す[30]。コピュラの基本形にはドー *=doo* と ダ *=da* がある（例(113)）。ドーのほうが優勢だが，両者に用法差はない。形容名詞の連体修飾形はナ *=na* となることは稀で，名詞と同様に属格ノで表される（例(114)）。否定形はジャー（*デワ *=de=wa* 由来だと思われる）に形式形容詞ナイ *na-i* を後接させる（7.3）。ジャーは仮定形でも用いられる（8.5）。形容名詞の副詞形はニ *=ni* である（例(115)）[31]。

(113) ソリャー　オイシノ　{カシドーヨ／カシダヨ}

sorjaa　*oisi=no*　*{kasi=doo=jo / kasi=da=jo}*

それ.TOP　2=GEN　{菓子=COP.NPST=SFP / 菓子=COP.NPST=SFP}

それはあなたの菓子だよ。

---

[30] 「静か」は話者 A・B の発話で [ɕiðuka] ～ [ɕidʑuka] であることから /sizuka/ とした。話者 E は /siduka/ である。

[31] 一般の名詞でも動詞ナルの場合は「ガクセーニ　ナル」*gakusee=ni nar-u* などニが用いられる。このニは与格助詞とみなす。

表 11　名詞述語の形

	名詞 ガクセー *gakusee*（学生）	形容名詞 シズカ *sizuka*（静か）
基本	ガクセードー *=doo* ガクセーダ *=da*	シズカドー *=doo* シズカダ *=da*
連体	ガクセーノ *=no*	シズカノ *=no* シズカナ *=na*（稀）
過去	ガクセーダットー *=daQ-too* ガクセーダッタ *= daQ-ta*	シズカダットー *=daQ-too* シズカダッタ *=daQ-ta*
推量	ガクセーヅラ *=dura*	シズカヅラ *=dura*
過去推量	ガクセーダッツラ *=daQ-tura*	シズカダッツラ *=daQ-tura*
中止	ガクセーデ *=de*	シズカデ *=de*
仮定	ガクセージャー *=zjaa*	シズカジャー *=zjaa*
逆接仮定	ガクセードーッテモ *=dooQtemo*	シズカドーッテモ *=dooQtemo*
否定	ガクセージャー ナイ *=zjaa na-i*	シズカジャー ナイ *=zjaa na-i*
副詞	（欠）	シズカニ *=ni*

(114) シズカノ　　ヘヤニ　　イルヨー
sizuka=no　　*heja=ni*　　*i-ru=joo*
静か=GEN　　部屋=DAT　　いる-NPST=SFP
（私は）静かな部屋にいるよ。

(115) ココデ　　シズカニ　　マチテ　　イロー
koko=de　　*sizuka=ni*　　*maci-te*　　*i-roo*
ここ=INS　　静か=COP.ADVL　　待つ-SEQ　　CONT-IMP
ここで静かに待っていろ。

7.　主文の構造

7.1　基本語順と格配列

基本語順は，1 項述語文（自動詞文，多くの形容詞述語文，名詞述語文）では「主語－述語」，2 項述語文（他動詞文）では「主語－直接目的語－述語」，3 項述語文（複他動詞文）では「主語－間接目的語－直接目的語－述語」または「主語－直接目的語－間接目的語－述語」である。例はそれぞれ，3.6.1 の(27)-(30)，下の(116)および 3.6.4 の(48)を参照。主語は主格ガ・ノ（ただし主題であれば主題助詞ワ *=wa* が付く），直接目的語は対格オ，間接目的語は与格ニで表される。

(116) アノ　　オイッコニ　　オモチャー　　クレトーヨ
ano　　*oiQko=ni*　　*omocjaa*　　*kure-too=jo*
あの　　甥=DAT　　おもちゃ.ACC　　与える-PST=SFP
あの甥におもちゃをやったよ。

7.2 情報構造ととりたて

7.2.1 主題と対比的とりたて

主題は助詞ワ =*wa* で表される。ただし，ワの前が短母音音節の場合(117)のように任意にその音節と融合する。主題句が無助詞で表されることは基本的にない。

(117) ワ =*wa* と前接語の融合規則（任意）

//..(C)i=wa// > /..(C)jaa/　例）カシャー *kasjaa* //kasi=wa//（菓子.TOP）

//..(C)e=wa// > /..(C)jaa/　例）カミャー *kamjaa* //kame=wa//（亀.TOP）

//..(C)u=wa// > /..(C)aa/　例）ヨラー *joraa* //joru=wa//（夜.TOP）

//..(C)o=wa// > /..(C)aa/　例）カー *kaa* //ko=wa//（子.TOP）

//..(C)a=wa// > /..(C)aa/　例）メカター *mekataa* //mekata=wa//（目方.TOP）

主語が主題の場合，主格は表されずに主語名詞句にワが直接付く（例(118)）。直接目的語が主題の場合，対格の後にワが付くことも，対格は表されずに目的語名詞句にワが直接付くこともある（例(119)，3.6.1 (32)(33)，3.3 (12)）。経験主体など与格名詞句が主題主語となる場合は，与格ニにワが付く。融合してニャー =*njaa* となることが多い（例(120)）。

(118) ハナカー　イマ　テレビオ　ミテ　イル

hanakaa　*ima*　*terebi=o*　*mi-te*　*i-ru*

花子.TOP　今　テレビ=ACC　見る-SEQ　CONT-NPST

花子は今テレビを見ている。

(119) アノ　ホンオワ　ハイ　ヨンドーヨ

ano　*hoɴ=o=wa*　*hai*　*joɴ-doo=jo*

あの　本=ACC=TOP　もう　読む-PST=SFP

あの本はもう読んだよ。

(120) タローニャー　ゼニガ　イル

taroo=njaa　*zeni=ŋa*　*ir-u*

太郎=DAT.TOP　銭=NOM　要る-NPST

太郎には金が要る。

ワは，複数の可能な事態から一つをとりあげる場合（対比的とりたて）にも用いられる。否定文で否定の焦点句に付く場合が多い。(121)のような名詞句のほか，(122)(123)のように名詞に格助詞が付いた形，副詞句や動詞にも付く。形容詞否定形や名詞述語の否定形では対比的な意味合いがなくてもワを含む形が義務的に用いられることは 6.1，6.3 で述べた。

(121) イノチャー　　トラレノーヨ

inocjaa　　*tor-are-noo=jo*

命.TOP　　取る-PASS-NEG.NPST=SFP

命は取られないよ。

(122) オッカナイデ　ヒトリジャー　　イケーノーヨ

oQkana-i=de　*hitori=zjaa*　　*ik-ee-noo=jo*

怖い-NPST=CSL　一人=INS.TOP　　行く-POT-NEG.NPST=SFP

怖いから一人では行けないよ。

(123) ハナカー　ソガーノー　　バングミオワ　　ミワ　　セヌヨ。

hanakaa　*soŋaa=noo*　　*baɴŋumi=o=wa*　*mi-Ø=wa*　　*se-nu=jo*

花子.TOP　そのよう=GEN　　番組=ACC=TOP　　見る-ADVL=TOP　する-NEG.NPST=SFP

花子はそんな番組は見はしないよ。

7.2.2　焦点

焦点を表す専用の形式は見当たらない。(124)は「さっきから外をみてるけど，どうしたの？」に対する応答としても「妹が泣いてるの？」に対する応答としても用いられる。つまり，主格ガは焦点が文全体の場合，主語の場合，両方に用いうる。対して，主語が前提（主題）のときは，7.2.1 で述べたようにガではなくワが用いられる。また，(125)は「今，何をしているの？」に対する応答としても「今，何を飲んでいるの？」に対する応答としても用いられる。つまり，対格オは焦点が述語句全体の場合，目的語の場合，両方に用いうる。目的語が前提（主題）のときは，7.2.1 で述べたようにワが用いられるか対格の後にワが付く。

(124) シャテーガ　　ナイテールドーヨ

sjatee=ŋa　　*nai-tee-ru=doo=jo*

弟=NOM　　泣く-CONT-NPST=COP.NPST=SFP

弟が泣いているんだよ。

(125) サキョー　　ノンデールヨ

sakjoo　　*noɴ-dee-ru=jo*

酒.ACC　　飲む-CONT-NPST=SFP

酒を飲んでいるよ。

情報構造の表示にはイントネーションが関与していると思われる。上げ核によるアクセント体系を持ち，句頭のイントネーションが 1 モーラめの上昇によって表される奈良田方言において（2.3 参照），情報構造に関わる，より大きな単位でのイントネーションがどのようなしくみを持つかは興味深いところだが，現在は分析・考察が及んでいない。

7.2.3　とりたて助詞

とりたて助詞として(126)の語が得られている。それぞれの例を(127)～(132)にあげる。名詞に直接付く以外の例を得ている語はなるべくそれらも示す。これらの形式の意味・用法についての調査は不十分である。

(126) モ =*mo*：累加。共通語の「も」に相当。
ダケ =*dake*：限定。共通語の「だけ」に相当。
（ッ）キリ =*(Q)kiri*：限定。共通語の「ばかり」に相当。
シカ =*sika*：限定。否定形述語と呼応。共通語の「しか」に相当。
デモ =*demo*：極限。共通語の「でも」に相当。
デンマ =*deɴma*：①例示。共通語の「でも」に相当。
②極限。否定形述語と呼応。共通語の「も」に相当。

(127) a. トナリノ　｛コガ／コノ｝　テモ　ヨゴレテールヨ
tonari=no　*{ko=ŋa / ko=no}*　*te=mo*　*joŋore-tee-ru=jo*
隣=GEN　{子=GEN / 子=GEN}　手=ADD　汚れる-CONT-NPST=SFP
隣の子の手も汚れているよ。（=(38)）
b. ムギデ　コージオモ　ツクットードーヨ
muŋi=de　*koozi=o=mo*　*tukuQ-too=doo=jo*
麦=INS　麹=ACC=ADD　作る-PST=COP.NPST=SFP
麦で麹も作ったのだよ。（=(45)）

(128) シャテート　ケンカー　シテ　オレダケガ　オトッサンニ
sjatee=to　*keŋkaa*　*si-te*　*ore=dake=ŋa*　*o-toQ-saɴ=ni*
弟=COM　けんか.ACC　する-SEQ　1=RST=NOM　POL-父-HCR=DAT
ヨマーレトーヨ
joma-are-too=jo
叱る-PASS-PST=SFP
弟とけんかして，私だけがお父さんに叱られたよ。

(129) a. ハナカー　テレビオ　ミデーテ　ホンキリ　ヨンデルヨ
hanakaa　*terebi=o*　*mi-deete*　*hoɴ=kiri*　*joɴ-de-ru=jo*
花子.TOP　テレビ=ACC　見る-NEG.ADVL　本=RST　読む-CONT-NPST=SFP
花子はテレビを見ないで，本ばかり読んでいるよ。
b. タローワ　イツモ　テマエオ　ヒトト　クラベテッキリ　イル
taroo=wa　*itumo*　*temae=o*　*hito=to*　*kurabe-te=Qkiri*　*i-ru*
太郎=TOP　いつも　自分=ACC　人=COM　比べる-SEQ=RES　CONT-NPST
太郎はいつも自分を人と比べてばかりいる。

(130) コノ　カー　マダ　ヌコイデ　ヒラガナシカー　カケーノーヨ

kono　*kaa*　*mada*　*nuko-i=de*　*hiraŋana=sikaa*　*kak-ee-noo=jo*

この　子.TOP　まだ　小さい-NPST=CSL　平仮名=RES　書く-POT-NEG.NPST=SFP

この子はまだ小さいから，平仮名しか書けないよ。

(131) コドモノ　コラー　センエンデモ　タイキンダットーヨ

kodomo=no　*koraa*　*seɴ-eɴ=demo*　*taikiɴ=daQ-too=jo*

子ども=GEN　頃.TOP　千-CLF=EXT　大金=COP-PST=SFP

子どもの頃は 1000 円でも大金だったよ。

(132) a. リョコーニデンマ　イットーヅラカ

rjokoo=ni=deɴma　*iQ-too=dura=ka*

旅行=DAT=EXPL　行く-PST=COP.INFR=QP

［「隣のうち，誰もいないみたいだ」と言われ］旅行にでも行ったのだろうか。

【例示】

b. ココイワ　ナンデンマ　カイチョ

koko=i=wa　*naɴ=deɴma*　*kai-cjo*

ここ=ALL=TOP　何=EXT　書く-PROH

ここには何も書くな。【極限】

7.3　極性

動詞の非過去形では肯定形ル *-ru* に対し，否定形がノー *-noo*，稀にヌ *-nu* となる。否定形はテンス等に応じ不規則に活用する。表 12 にカク *kak-u*（書く）で代表させて肯定形・否定形を示す。

表 12　動詞の極性による対立

	肯定	否定
基本	カク *kak-u*	カカノー *kaka-noo* カカヌ *kaka-nu*
過去	カイトー *kai-too* カイタ *kai-ta*	カカナンドー *kaka-naɴdoo* カカナンダ *kaka-naɴda* カカナカッタ *kaka-nakaQta*
推量	カクラ *kak-u=ra*	カカヌラ *kaka-nu=ra* [32]
過去推量	カイツラ *kai-tura* カイタラ *kai-ta=ra*	（未確認）
中止	カイテ *kai-te*	カカデーテ *kaka-deete*
仮定	カケバ *kak-eba*	カカナイバ *kaka-naiba* カカデーチャー *kaka-deecjaa* [33]
逆接仮定	カイテモ *kai-temo*	カカノーッテモ *kaka-nooQtemo*

[32] 否定推量形は カカノーラ *kaka-noo=ra* にあたる形は許容されるが，自発的に使われにくい。また，否定推量でマイを使った形も誘導で得ているが，確認不足のためここでは略す。

[33] デーチャー *-deecjaa* は，中止形デーテと主題（対比的とりたて）のワ *=wa* の融合形だと思われる。共時的にそう分析することもできるが，ここでは一つの形態素とする。

(133)～(136)に否定形の例を示す。

(133) オリャー　アンマリ　テレビオ　ミノーヨ
orjaa　*aɴmari*　*terebi=o*　*mi-noo=jo*
1.TOP　あまり　テレビ=ACC　見る-NEG.NPST=SFP
私はあまりテレビを見ないよ。

(134) アメガ　フッテールデー　ケダイオ　キテ　イカデーチャー
ame=ŋa　*huQ-tee-ru=dee*　*kedai=o*　*ki-te*　*ika-deecjaa*
雨=NOM　降る-CONT-NPST=CSL　蓑=ACC　着る-SEQ　行く-NEG.CND
シゴトニャー　ナラヌヨ
siŋoto=njaa　*nara-nu=jo*
仕事=DAT.TOP　なる-NEG.NPST=SFP
雨が降っているから，蓑を着て行かなければ仕事にならないよ（lit. 仕事にはならないよ）。

(135) バンバーワ　サキャー　ノマナンドーヨ
baɴbaa=wa　*sakjaa*　*noma-naɴdoo=jo*
祖母=TOP　酒.TOP　飲む-NEG.PST=SFP
ばあさんは酒は飲まなかったよ。

(136) ハナコガ　コノ　エーガー　ミノーッテモ　タローワ
hanako=ŋa　*kono*　*eeŋaa*　*mi-nooQtemo*　*taroo=wa*
花子=NOM　この　映画.ACC　見る-NEG.CONC　太郎=TOP
キニャー　セヌラー
ki=njaa　*se-nu=raa*
気=DAT.TOP　する-NEG.NPST=INFR
花子がこの映画を見なくても，太郎は気にしないだろう（lit. 気にはしないだろう）。

6.1，6.3 で見たように，形容詞述語の否定形は「アカカー ナイ」，名詞述語の否定形は「ガクセージャー ナイ」のように，それぞれカー *-kaa*（＜ **-ku=wa*），ジャー *=zjaa*（＜ **=de=wa*）に補助形容詞ナイを後接させて表す（例(137)(138)）。

(137) マダ　ミガ　アカカー　ナイヨー
mada　*mi=ga*　*aka-kaa*　*na-i=joo*
まだ　実=NOM　赤い-ADVL.TOP　NEG-NPST=SFP
まだ実が赤くないよ（lit. 赤くはないよ）。

(138) ガクセージャー　　ナイヨー
gakusee=zjaa　　*na-i=joo*
学生=COP.ADVL.TOP　　NEG-NPST=SFP
（花子は）学生じゃないよ。

7.4　ヴォイス

7.4.1　使役

動詞の使役形はV動詞型の接辞サセ（ル）*-sase-ru* で作られる。

自動詞文にもとづく使役文では，動作主体（元の文の主語）が対格または与格で表される。強制使役では対格，許可使役では与格になりやすく，特に強制使役での与格は許容されにくい（例(139a)）。影響者（使役文の主語）が変化主体（元の文の主語）の非意志的な変化を引き起こすことを表す使役文では，主体は対格で表される（与格は不可。例(140)(141)）。他動詞文にもとづく使役文では，動作主体は与格で（対格は不可），動作の対象は対格で表される（例(142)）。自動詞で経路を対格でとる文にもとづく使役文でも，動作主は対格をとりにくい（例(143)）。いわゆる二重対格制約が奈良田方言にもあると言える。

(139) a.　｛シャテーオ／?シャテーニ｝　ムリヤリニ　　イカセトーヨ
{sjatee=o / ?sjatee=ni}　　*murijari=ni*　　*ik-ase-too=jo*
{弟=ACC / 弟=DAT}　　無理やり=COP.ADVL　　行く-CAUS-PST=SFP
弟を無理やりに行かせたよ。

b.　｛シャテーオ／シャテーニ｝　イカセトーヨ
{sjatee=o / sjatee=ni}　　*ik-ase-too=jo*
{弟=ACC / 弟=DAT}　　行く-CAUS-PST=SFP
（弟が行きたいと言うので）弟に行かせたよ。

(140) タローワ　　シャエンモノー　　クサラセトーニ
taroo=wa　　*sjaeɴmono=o*　　*kusar-ase-too=ni*
太郎=TOP　　野菜=ACC　　腐る-CAUS-PST=SFP
太郎は野菜を腐らせたよ。

(141) イシャー　　マチガッテ　　カンジャー　　シナセトーニ
isjaa　　*maciŋaQ-te*　　*kaɴzjaa*　　*sin-ase-too=ni*
医者.TOP　　間違う-SEQ　　患者.ACC　　死ぬ-CAUS-PST=SFP
医者は誤って患者を死なせたよ。

(142) タローワ　　シャテーニ　　ヤミクモニ　　アオモノオ　　タベサセトー
taroo=wa　　*sjatee=ni*　　*jamikumo=ni*　　*aomono=o*　　*tabe-sase-too*
太郎=TOP　　弟=DAT　　無理やり=COP.ADVL　　野菜=ACC　　食べる-CAUS-PST
太郎は弟に無理やり野菜を食べさせた。

(143) オッカナガル　｛シャテーニ／?シャテーオ｝　ツリバショー　アリカセトーヨ
oQkana-ŋar-u　*{sjatee=ni / ?sjatee=o}*　*turibasjoo*　*arik-ase-too=jo*
怖い-VBL-NPST　{弟=DAT / 弟=ACC}　吊り橋.ACC　歩く-CAUS-PST=SFP
こわがる弟に吊り橋を歩かせたよ。

7.4.2　受身

動詞の受身形は V 動詞型の接辞ラレル *-rare-ru* で作られる。(144)は他動詞能動文に対応する受身文で，他動詞文の対格目的語が主格，他動詞文の主格主語が与格で表わされている。(145)はいわゆる迷惑の受身文で，被影響者は主題で非表示，自動詞文の主格主語が与格で表されている。

(144) シャテート　ケンカー　シテ　オレダケガ
sjatee=to　*keɴkaa*　*si-te*　*ore=dake=ŋa*
弟=COM　けんか.ACC　する-SEQ　1=RST=NOM
オトッサンニ　ヨマーレトーヨ。
o-toQ-saɴ=ni　*joma-are-too=jo*
POL-父-HCR=DAT　叱る-PASS-PST=SFP
弟とけんかして，私だけがお父さんに叱られたよ。（=(128)）

(145) ハナコニ　キラレテ　メーワクダッタ
hanako=ni　*ki-rare-te*　*meewaku=daQ-ta*
花子=DAT　来る-PASS-SEQ　迷惑=COP-PST
花子に来られて，迷惑だった。

7.4.3　授受

物の授受，および，動詞中止テ形の後に補助動詞として付いて利益の授受を表す動詞の体系を表 13 に示す。(146)～(149)に本動詞の例，(150)～(152)に補助動詞の例を示す。表 13 と例文から分かるように，主格主語から与格補語への移動を表す場合，本動詞と補助動詞とで異なる。すなわち，クレルは本動詞としては主語視点（共通語の「やる」相当）・補語視点（共通語の「くれる」相当）ともに使われるが，補助動詞としては補語視点での使用に偏り，主語視点ではヤルが使われる。また，本動詞で補語視点の場合はヨコスも用いられるが[34]，ヨコスには補助動詞の用法はない。

[34] 例(147)からは分かりにくいが，ヨコスが空間的な移動だけでなく所有権の移動も表すことは話者に確認している。

表 13　授受動詞の体系

格標示（与え手→受け手）		視点	
		本動詞	補助動詞
主格→与格	クレル *kure-ru*	主語・補語	補語（主語は容認度劣る）
	ヤル *jar-u*	主語（稀）	主語
	ヨコス *jokos-u*	補語	（用法なし）
与格（本動詞のみ奪格も）→主格	ウケル *uke-ru*	主語	主語

(146) A:　ダレガ　タローニ　ホンオ　クレトーズラカー

dare=ŋa　*taroo=ni*　*hoɴ=o*　*kure-too=zura=kaa*

誰=NOM　太郎=DAT　本=ACC　与える-PST=COP.INFR=QP

誰が太郎に本をやったの？（lit. やったのだろうか）

B:　オレガ　タローニ　ホンオ　クレトードーヨ

ore=ŋa　*taroo=ni*　*hoɴ=o*　*kure-too=doo=jo*

私=NOM　太郎=DAT　本=ACC　与える-PST=COP.NPST=SFP

私が太郎に本をやったんだよ。

(147) トモダチガ　ホンオ　｛クレトー／ヨコイトー｝

tomodaci=ŋa　*hoɴ=o*　*{kure-too / jokoi-too}*

友達=NOM　本=ACC　{与える-PST / 与える-PST}

友達が（私に）本をくれた。

(148) タローワ　オヤニ　ゼニオ　ウケトーカー

taroo=wa　*oja=ni*　*zeni=o*　*uke-too=kaa*

太郎=TOP　親=DAT　金=ACC　もらう-PST=QP

太郎は親にお金をもらったのか。

(149) マゴカラ　ホンオ　ウケトーヨ

maŋo=kara　*hoɴ=o*　*uke-too=jo*

孫=ABL　本=ACC　もらう-PST=SFP

孫から本をもらったよ。

(150) マゴニ　ホンオ　ヨンデ　｛ヤットーヨ／?クレトーヨ｝

maŋo=ni　*hoɴ=o*　*joɴ-de*　*{jaQ-too=jo / ?kure-too=jo}*

孫=DAT　本=ACC　読む-SEQ　{BEN-PST=SFP / BEN-PST=SFP}

孫に本を読んでやったよ。

(151) マゴガ　ホンオ　ヨンデ　｛クレトーヨ／*ヨコイトーヨ｝

maŋo=ŋa　*hoɴ=o*　*joɴ-de*　*{kure-too=jo / *jokoi-too=jo}*

孫=NOM　本=ACC　読む-SEQ　{BEN-PST=SFP / 与える-PST=SFP}

孫が本を読んでくれたよ。

(152) マゴニ　ホンオ　ヨンデ　ウケトーニ
maŋo=ni　*hoɴ=o*　*joɴ-de*　*uke-too=ni*
孫=DAT　本=ACC　読む-SEQ　BEN-PST=SFP
孫に本を読んでもらったよ。

7.4.4　可能

可能を表す接辞は，C 動詞と V 動詞で非対称である。すなわち，C 動詞ではカケールまたはカケルなど V 動詞型接辞 *-ee-ru*, *-e-ru* によって，V 動詞ではミラレルまたはミレルと，V 動詞型接辞ラレル *-rare-ru*, レル *-re-ru* によって可能形が作られる。(153)に C 動詞，(154)に V 動詞の例をあげる（ただし V 動詞のレル形は略）。不規則動詞クル（来る）の場合は V 動詞に準じる（5.1 表 8）。シル（する）はこれらの形を持たず，補充法によりデキル *deki-ru*，デル *de-ru* で可能を表す（例(155)）。動作を可能／不可能にする条件による対立は明確にはないが，C 動詞では，(153)のように，動作主の能力による場合は *-ee-ru* が，外的状況による場合は *-e-ru* が用いられやすい。

他動詞の可能文における直接目的語は対格か主格で表わされる[35]。

(153) a. コノ　カー　マダ　ヌコイドーガ　ムズカシー
kono　*kaa*　*mada*　*nuko-i=dooŋa*　*muzukasi-i*
この　子.TOP　まだ　小さい-NPST=ADVS　難しい-NPST
カンジオモ　カケールヨ
kaɴzi=o=mo　*kak-ee-ru=jo*
漢字=ACC=ADD　書く-POT-NPST=SFP
この子はまだ小さいのに，難しい漢字も書けるよ。

b. キョーワ　ジカンガ　アルドーデ　ユックリ　テガミガ
kjoo=wa　*zikaɴ=ŋa*　*ar-u=doode*　*juQkuri*　*teŋami=ŋa*
今日=TOP　時間=NOM　ある-NPST=CSL　ゆっくり　手紙=NOM
カケルヨ
kak-e-ru=jo
書く-POT-NPST=SFP
今日は時間があるので，ゆっくり手紙が書けるよ。

(154) a. ハナカー　ミチョー　シラノードーデ　ヒトリジャー　キラレノーヨ
hanakaa　*micjoo*　*sira-noo=doode*　*hitori=zjaa*　*ki-rare-noo=jo*
花子.TOP　道.ACC　知る-NEG.NPST=CSL　一人=INS.TOP　来る-POT-NEG.NPST=SFP
花子は道を知らないので，一人では来られないよ。

[35] 動作主体は(154a)など主題助詞ワで表される例文のみ得ており，格標示を確認していない。主格は可能だと思われるが，与格も可能かを確かめる必要がある。

b. イェキカラ　トーイドーデ　アリッチャー　キラレノー
jeki=kara　*too-i=doode*　*ariQ-cjaa*　*ki-rare-noo*
駅=ABL　遠い-NPST=CSL　歩く-SEQ.TOP　来る-POT-NEG.NPST
駅から遠いので，歩いては来られない。

(155) タローワ　ヒトリデ　コノ　シゴトガ　{デキルヨー／デルヨー}
taroo=wa　*hitori=de*　*kono*　*siŋoto=ŋa*　*{deki-ru=joo / de-ru=joo}*
太郎=TOP　一人=INS　この　仕事=NOM　{できる-NPST=SFP / できる-NPST=SFP}
太郎は一人でこの仕事ができるよ。

7.4.5　ヴォイスの周辺

知覚の経験者を与格，対象を主格で表す，「見える」にあたる動詞メール *mee-ru*（例(156)），「聞こえる」にあたる動詞キカーサル *kikaasar-u* がある（例(157)）。後者の語形成は **kik-a(a)sar-u*（聞く-自発接辞）だと推測されるが，この自発接辞には生産性がなく，他の例はウカサル *ukasar-u*（< **uk-asar-u*「受かる」，8.1 (240)）のみである。かつては生産性があってわずかな動詞のみが語彙化して残っているか，近隣他方言から借用されたかだと思われる。

(156) アソコニ　カンバンガ　メールラー
asoko=ni　*kaɴbaɴ=ŋa*　*mee-ru=raa*
あそこ=DAT　看板=NOM　見える-NPST=INFR
あそこに看板が見えるだろう？

(157) タローニャー　イカイ　オトガ　キカーサル
taroo=njaa　*ika-i*　*oto=ŋa*　*kikaasar-u*
太郎=DAT.TOP　大きい-NPST　音=NOM　聞こえる-NPST
太郎には大きな音が聞こえる。

7.5　アスペクトとテンス

アスペクトの基本的対立は，(158)のように，動詞ル形 *-ru*（無標。非継続）と補助動詞構造テイル *-te i-ru*，またはその縮約形 テール *-tee-ru*（継続）で表される[36]。テイル・テールは，動作の進行，結果の状態いずれも表す。(158b)(159)は動作の進行の例，(160)は結果の状態の例である。

(158) a. イマッカラ　テレビオ　ミル
ima=Qkara　*terebi=o*　*mi-ru*
今=ABL　テレビ=ACC　見る-NPST
今からテレビを見る。

[36] テール *-tee-ru* は，テル *-te-ru* と短く発話されることもあるが，注意深い発話では長音形テールであり，話者の内省でもそれが本来の形だと意識されている。

b. ハナカー　イマ　テレビオ　ミテ　イル
hanakaa　*ima*　*terebi=o*　*mi-te*　*i-ru*
花子.TOP　今　テレビ=ACC　見る-SEQ　CONT-NPST
花子は今テレビを見ている。（=(118)）

(159) タローワ　バスー　マチテール
taroo=wa　*basuu*　*maci-tee-ru*
太郎=TOP　バス.ACC　待つ-CONT-NPST
太郎はバスを待っている。

(160) オレガ　テワ　ヨゴレテ　イルヨ
ore=ŋa　*te=wa*　*joŋore-te*　*i-ru=jo*
1=GEN　手=TOP　汚れる-SEQ　CONT-NPST=SFP
私の手は汚れているよ。（=(35)）

完了を表す形式として，5.2 で触れた，テヒッチモー *-te hiQ-cimoo* //-te hiQ-cimaw-u//, テシモー *-te simoo* //-te simaw-u// がある。事態に対する消極的評価を伴う。また，動作を完遂させることを表す接尾辞キル *-kir-u* がある。それぞれの例を(161)-(163)に示す。

(161) アノ　サラー　タローガ　ワッテ　ヒッチマットーヨ
ano　*saraa*　*taroo=ŋa*　*waQ-te*　*hiQ-cimaQ-too=jo*
あの　皿.TOP　太郎=NOM　割る-SEQ　EMPH-PFV-PST=SFP
あの皿は，太郎が割ってしまったよ。

(162) アノ　カシャー　ハイ　クッテ　シマットーカ
ano　*kasjaa*　*hai*　*kuQ-te*　*simaQ-too=ka*
あの　菓子.TOP　もう　食う-SEQ　PFV-PST=QP
あの菓子はもう食べてしまったのか？

(163) クイキレナカットードーデ　ノコイトー
kui-kir-e-na-kaQtoo=doode　*nokoi-too*
食う-PFV-POT-NEG-PST=CSL　残す-PST
食べきれなかったので残した。

動作・変化の開始前の段階を表す形式として，形式名詞トコ *toko* にコピュラを後接する形式がある（例(164)）。また，その兆候の証拠にもとづく推測を表す ソードー・ソーダ *-soo={doo/da}* によっても表される（7.6.1 参照）。過去形トー *-too*，タ *-ta* は，(165)のように，完了のアスペクトも表す。そのほかの副次的なアスペクト形式として，複合動詞構造の形式（共通語の「～始める」「～終わる」「～かける」などに相当するもの）もあるのではないかと思われるが，調査・研究が至っていない。

(164) イマ　インメーデ　チャワンオ　ウチオトス　トコダットーヨ
ima　*iɴmee=de*　*cjawaɴ=o*　*uci-otos-u*　*toko=daQ-too=jo*
もう　少し=COP.ADVL　茶碗=ACC　EMPH-落とす-NPST　局面=COP-PST=SFP
もう少しで茶碗を落とすところだったよ。

(165) アノ　ホンオワ　ハイ　ヨンドーヨ
ano　*hoɴ=o=wa*　*hai*　*joɴ-doo=jo*
あの　本=ACC=TOP　もう　読む-PST=SFP
あの本はもう読んだよ。（=(119)）

テンスの基本的対立は，非過去形と過去形で表される。動詞肯定形はル *-ru* 対トー *-too*，タ *-ta*（例(166)），動詞否定形はノー *-noo*，ヌ *-nu* 対ナンドー *-naɴdoo*，ナンダ *-naɴda*, ナカッタ *-nakaQta*（7.3），形容詞はイ *-i* 対カットー *-kaQtoo*，カッタ *-kaQta*（例(167)），コピュラはドー *=doo*，ダ *=da* 対ダットー *=daQ-too*，ダッタ *=daQ-ta*（例(168)）と対立する[37]。

(166) a. イマッカラ　テレビオ　ミル
ima=Qkara　*terebi=o*　*mi-ru*
今=ABL　テレビ=ACC　見る-NPST
今からテレビを見る。（=(158a)）

b. キニョー　テレビオ　{ミトー／ミタ}
kinjoo　*terebi=o*　*{mi-too / mi-ta}*
昨日　テレビ=ACC　{見る-PST / 見る-PST}
昨日テレビを見た。

(167) a. コノ　トマター　アカイヨー
kono　*tomataa*　*aka-i=joo*
この　トマト.TOP　赤い-NPST=SFP
このトマトは赤いよ。

b. キニョー　カッタ　トマター　アカカットーヨ
kinjoo　*kaQ-ta*　*tomataa*　*aka-kaQtoo=jo*
昨日　買う-NPST　トマト.TOP　赤い-PST=SFP
昨日買ったトマトは赤かったよ。

(168) a. コノ　ヘヤー　シズカドーヨ
kono　*hejaa*　*sizuka=doo=jo*
この　部屋.TOP　静か=COP.NPST=SFP

[37] コピュラには非過去形，過去形にそれぞれ 2 形ある。ドーとダットー，ダとダッタがそれぞれ対立するなどの対応関係があるわけでない。

この部屋は静かだよ。

b. コノ　ヘヤー　シズカダットーニ

kono　*hejaa*　*sizuka=daQ-too=ni*

この　部屋.TOP　静か=COP-PST=SFP

この部屋は静かだったよ。

7.6　ムードとモダリティ

「モダリティ」を事態に対する話し手の把握のしかたを表す意味論的なカテゴリー，「ムード」をそのうち述語の形態論的な対立を構成する文法カテゴリーとする。奈良田方言ではこの意味でのムードと統語的・韻律的特徴にもとづいて，文タイプとして平叙文，疑問文，命令文・禁止文，意志文，勧誘文，感嘆文が区別できる。本節ではまず平叙文を中心に認識的モダリティ（7.6.1），評価的モダリティ（7.6.2），説明のモダリティ（7.6.3）について記し，続いて平叙文以外の文タイプとそれぞれの関連表現について記す（7.6.4～7.6.7）。最後にモダリティを副次的に担う形式群である終助詞について記す（7.6.8）。

7.6.1　認識的モダリティ

認識的モダリティの基本的な対立は，述語の断定形と推量形の対立である。動詞・形容詞の非過去形では，推量形は断定形に接語ラ *=ra* を付けてつくられる。コピュラの非過去形では，断定形ドー *=doo* またはダ *=da* に対して推量形がヅラ *=dura* である[38]。動詞・形容詞・コピュラの過去形では，断定形（カッ）トー *-(kaQ)too* または（カッ）タ *-(kaQ)ta* に対して，推量形が（カッ）ツラ *-(kaQ)tura* である。動詞の過去推量形には新形と思われるタラ *-ta=ra* もある。(169)～(171)に品詞ごとに非過去推量と過去推量の例を示す。

(169) a. ハナコモ　ソノ　バングミオ　ミルラー

hanako=mo　*sono*　*baɴŋumi=o*　*mi-ru=raa*

花子=ADD　その　番組=ACC　見る-NPST=INFR

花子もその番組を見るだろう。

b. ミツラヨ

mi-tura=jo

見る-PST.INFR=SFP

［「花子もその番組を見ただろうか」と聞かれて］見ただろうよ。

(170) a. コノ　トマター　ナカモ　アカイラヨ

kono　*tomataa*　*naka=mo*　*aka-i=ra=jo*

この　トマト.TOP　中=ADD　赤い-NPST=INFR=SFP

[38] ヅ /du/ とズ /zu/ の対立が失われつつあることに伴い，ヅラ *=dura* はズラ *=zura* となることもある。本文では前者で代表させ，例文では得られた音声にもとづいて記す。

このトマトは中も赤いだろうよ。

b. キニョーモ　コノ　トマター　アカカッツラカー

kinjoo=mo　*kono*　*tomataa*　*aka-kaQtura=kaa*

昨日=ADD　この　トマト=TOP　赤い-PST.INFR=QP

昨日もこのトマトは赤かっただろうか。

(171) a. タローワ　マダ　ガッコーセートズラヨ

taroo=wa　*mada*　*gaQkoo+seeto=zura=jo*

太郎=TOP　まだ　学校+生徒=COP.INFR=SFP

太郎はまだ学生だろうよ。

b. タローワ　キョネンマジャー　ガッコーセートダッツラカ

taroo=wa　*kjonen=mazjaa*　*gaQkoo+seeto=daQ-tura=ka*

太郎=TOP　去年=LMT.TOP　学校+生徒=COP-PST.INFR=QP

太郎は去年までは学生だっただろうか。

ヅラは，動詞や形容詞に直接後接することもある。これは共通語の「のだろう」に当たる形である。奈良田方言では共通語の「のだ」にあたる形は，動詞や形容詞に直接コピュラ（ドー・ダ）が後接して表される（7.6.3）。つまり，(172)のように，「動詞・形容詞の断定形=ドー・ダ」と「動詞・形容詞の断定形=ヅラ」が「のだ」と「のだろう」にあたる対立関係を成す。

(172) a. オレガ　タローニ　ホンオ　クレトードーヨ

ore=ŋa　*taroo=ni*　*hoN=o*　*kure-too=doo=jo*

私=NOM　太郎=DAT　本=ACC　与える-PST=COP.NPST=SFP

私が太郎に本をやったんだよ。

b. ダレガ　タローニ　ホンオ　クレトーズラカー

dare=ŋa　*taroo=ni*　*hoN=o*　*kure-too=zura=kaa*

誰=NOM　太郎=DAT　本=ACC　与える-PST=COP.INFR=SFP

誰が太郎に本をやったのだろうか？

蓋然性の高い推量を表す形式として，形式名詞ハズ *=hazu* にコピュラを後接する形がある（例(173)）。ハズはテンスを分化した形式に付く（名詞述語非過去の場合は未確認）。知覚証拠にもとづく推定を表す形式として，接尾辞ソー *-soo* あるいは接尾辞ゲ *-ŋe* にコピュラを後接する形（例(174)-(177)），形式名詞ヨーにコピュラを後接する形（例(178)）がある。前者は，動詞の語幹（C 動詞ではカキ *kaki* など i 形），形容詞の語幹，形容名詞に付く。動作・変化を表す動詞に付く場合は，達成前の局面を表すアスペクト形式という側面がある。後者は動詞・形容詞・コピュラのテンスを分化した形式に付く。名詞述語の非過去形の場合は属格 *=no* に付き，ものごとの様子を比喩的に表す用法もある（例(179)，8.11）。

(173) マガー　トーガンオ　クットー　コトワ　ナイハズダヨ
maŋaa　*tooŋaɴ=o*　*kuQ-too*　*koto=wa*　*na-i=hazu=da=jo*
孫.TOP　冬瓜=ACC　食う-PST　こと=TOP　ない-NPST=INFR=COP.NPST=SFP
孫は冬瓜を食ったことはないはずだよ。

(174) アノ　ウサギャー　ボツボツ　コドモー　ウミソーダナ
ano　*usaŋjaa*　*botubotu*　*kodomo=o*　*umi-soo=da=na*
あの　ウサギ.TOP　そろそろ　子ども=ACC　産み-PRSM=COP.NPST=SFP
あのウサギはそろそろ子どもを産みそうだな。

(175) イヌノ　ケガ　ノビテ　アツソーダナー
inu=no　*ke=ŋa*　*nobi-te*　*atu-soo=da=naa*
犬=GEN　毛=NOM　伸びる-SEQ　暑い-PRSM=COP.NPST=SFP
犬の毛が伸びて暑そうだな。

(176) タイヘンソードーデ　テツダースカ
taiheɴ-soo=doo=de　*tetudaa-su=ka*
大変-PRSM=COP.NPST=CSL　手伝う-VOL=QP
大変そうだから，手伝おうか。

(177) オイシノ　オトッサンワ　イマー　ヤサシゲドーガ
oisi=no　*o-toQ-saɴ=wa*　*imaa*　*jasasi-ŋe=doo=ŋa*
2=GEN　POL-父-HCR=TOP　今.TOP　優しい-PRSM=COP.NPST=ADVS
ムカシャー　オッカナカットーカ
mukasjaa　*oQkana-kaQtoo=ka*
昔.TOP　怖い-PST=QP
あなたのお父さんは今は優しそうだけど，昔は怖かったか？

(178) タローワ　ノチゾイオ　ウケトーヨーダヨ
taroo=wa　*nocizoi=o*　*uke-too=joo=da=jo*
太郎=TOP　後妻=ACC　もらう-PST=PRSM=COP.NPST=SFP
太郎は後妻をもらったようだよ。

(179) チノ　ヨーノ　アジガ　スルニー
ci=no　*joo=no*　*azi=ŋa*　*su-ru=nii*
血=GEN　PRSM=GEN　味=NOM　する-NPST=SFP
血のような味がするよ。

可能性を表すのは，カモシレノー *=ka=mo sire-noo*（=QP=ADD 知れる-NEG）である（例(180)）。

(180) イマー　シズカドーッテモ　アトカラ
imaa　*sizuka=dooQtemo*　*ato=kara*
今.TOP　静か=COP.CONC　後=ABL
シャラウルサク　ナルカモ　シレノーヨ
sjara-urusa-ku　*nar-u=ka=mo*　*sire-noo=jo*
EMPH-うるさい-ADVL　なる-NPST=QP=ADD　知れる-NEG.NPST=SFP
今は静かでも，後からうるさくなるかもしれないよ。

伝聞を表す形式として，ゲノー *=ŋenoo* がある[39]（例(181)）。

(181) トナリノ　イェーサ　ドロボーガ　ハイットーダゲノーヨ
tonari=no　*jee=sa*　*doroboo=ŋa*　*haiQ-too=da=ŋenoo=jo*
隣=GEN　家=ALL　どろぼう=NOM　入る-PST=COP.NPST=HS=SFP
隣の家にどろぼうが入ったんだそうだよ。

7.6.2　評価的モダリティ

話し手の事態に対する評価を表すモダリティ形式として(182)を得ている[40]。(182a)の例を(183)(184)，(182b)の例を(185)-(188)，(182c)の例を(189)，(182d)の例を(190)，(182e)の例を(191)(192)にあげる。これらは，聞き手が動作主体の場合は，命令・禁止表現として機能しうる。

(182) 評価的モダリティの形式
a. 望ましさ　仮定形＋形容詞ヨイ： レバ ヨイ *-reba jo-i*
b. 当為
[1] 否定仮定形=コピュラ： ナイバ｛ドー／ダ｝ *-naiba={doo/da}*
デーチャー｛ドー／ダ｝ *-deecjaa={doo/da}*
[2] 否定仮定形＋形容名詞ダメ=コピュラ：ナイバ ダメ｛ドー／ダ｝ *-naiba dame={doo/da}*
[3] 否定仮定形＋動詞ナル否定形： ナイバ ナラ｛ノー・ヌ｝ *-naiba nara-{noo/nu}*
[4] 否定仮定形＋動詞イク可能否定形： ナイバ イケ｛ノー・ヌ｝ *-naiba ik-e-{noo/nu}*
c. 許可　逆接仮定形＋形容詞ヨイ： テモ ヨイ *-temo jo-i*
d. 不必要　否定逆接仮定形＋形容詞ヨイ： ノーッテモ ヨイ *-nooQtemo jo-i*
e. 不許可
[1] 仮定形＋形容名詞ダメ（=コピュラ）：チャー ダメ（=｛ドー／ダ｝）
-cjaa dame(={doo/da})

[39]『方言文法全国地図』第 5 集（国立国語研究所 2002）では amedatʃuːjo（雨だそうだ），takaiŋenoː，takaitʃuːjo（高いそうだ），itoːtʃuːkotoda（いたそうだ）と，本文で触れたゲノーのほかに引用助詞と発話動詞「言う」の縮約形と思われるチュー cjuu が伝聞形式として回答されている。
[40] いずれも動詞述語の場合であり，形容詞・名詞述語の形は未確認である。

[2] 仮定形＋動詞イク可能否定形： チャー イケ｛ノー・ヌ｝ *-cjaa ik-e-{noo/nu}*

(183) コシノ　イタイガ　ナクナッテ　クレレバ　ヨイナー
kosi=no　*ita-i=ŋa*　*nakunaQ-te*　*kure-reba*　*jo-i=naa*
腰=GEN　痛い-NPST=NOM　無くなる-SEQ　BEN-CND　良い-NPST=SFP
腰の痛いのが無くなってくれればいいなあ。

(184) アサヒオ　ミル　オリャー　アソコニ　イケバ　ヨイヨ
asahi=o　*mi-ru*　*orjaa*　*asoko=ni*　*ik-eba*　*jo-i=jo*
朝日=ACC　見る-NPST　時.TOP　あそこ=DAT　行く-CND　良い-NPST=SFP
朝日を見るときは，あそこに行けばいいよ。

(185) トナリー　ハイットージャー　ウラガ　エーデモ　キオ
tonari=i　*haiQ-too=zjaa*　*ura=ŋa*　*ee=de=mo*　*ki=o*
隣=ALL　入る-PST=COP.CND　1.PL=GEN　家=INS=ADD　気=ACC
ツケナイバドーヨ
tuke-naiba=doo=jo
つける-NEG.CND=COP.NPST=SFP
隣に入ったなら，わたしたちの家でも気をつけなければならないよ（lit. 気をつけなければだよ）。

(186) ゾーキンデ　フカナイバ　ダメドーヨ
zookiɴ=de　*huka-naiba*　*dame=doo=jo*
雑巾=INS　拭く-NEG.CND　駄目=COP.NPST=SFP
［床が濡れているのを見て］雑巾で拭かなければだめだよ。

(187) アノ　キノ　エダー　ツモラナイバ　ナラノーヨ
ano　*ki=no*　*edaa*　*tumora-naiba*　*nara-noo=jo*
あの　木=GEN　枝.ACC　切り揃える-NEG.CND　なる-NEG.NPST=SFP
あの木の枝を切り揃えなければならないよ。

(188) テガミオ　カイトージャー　チュード　ダシー　イカナイバ
teŋami=o　*kai-too=zjaa*　*cjuudo*　*dasi=i*　*ika-naiba*
手紙=ACC　書く-PST=COP.CND　すぐ　出す=ALL　行く-NEG.CND
イケヌヨ
ik-e-nu=jo
行く-POT-NEG.NPST=SFP
手紙を書いたのなら，すぐ出しに行かなければいけないよ。

(189) キクラゲワ　ドカー　ナイデ　クッテモ　ヨイヨ
kikuraŋe=wa　*dokaa*　*na-i=de*　*kuQ-temo*　*jo-i=jo*
キクラゲ=TOP　毒.TOP　ない-NPST=CSL　食う-CONC　良い-NPST=SFP

キクラゲは毒はないから食ってもいいよ。

(190) ナンデンマ　シノーッテモ　ヨイヨ

naɴ=deɴma　*si-nooQtemo*　*jo-i=jo*

何=EXT　する-NEG.CONC　良い-NPST=SFP

何もしなくていいよ。

(191) メオ　アンマリ　コスッチャー　ダメー

me=o　*aɴmari*　*kosuQ-cjaa*　*damee*

目=ACC　あまり　こする-CND　駄目

目をあまりこすってはだめだ。

(192) モー　ミガ　アカイドーガ　マダ　トッチャー　イケノーヨ

moo　*mi=ŋa*　*aka-i=dooŋa*　*mada*　*toQ-cjaa*　*ik-e-noo=jo*

もう　実=NOM　赤い-NPST=ADVS　まだ　取る-CND　行く-POT-NEG.NPST=SFP

もう実が赤いが，まだ取ってはいけないよ。

7.6.3　説明のモダリティ

共通語の「のだ」形にあたる，事態を既定のこととして聞き手に説明する表現を，日本語記述文法研究会（2003: 189-205）にならい「説明のモダリティ」とする。奈良田方言では，「の」のような準体助詞が用いられず，動詞ル形・タ形などの断定形に直接コピュラであるドー *=doo* またはダ *=da* を付加して説明のモダリティを表す（例(193)(194)）。その推量形（既定の事態について推量する形式。共通語の「のだろう」相当）は，断定形にヅラ *=dura* を付加した形となる（例(195)。7.6.1 も参照）。

(193) シャテーガ　ナイテールドーヨ

sjatee=ŋa　*nai-tee-ru=doo=jo*

弟=NOM　泣く-CONT-NPST=COP.NPST=SFP

［「さっきから外を見てどうしたの？」と聞かれて］弟が泣いているんだよ。（=(124)）

(194) オイシオワ　ヨンジャー　イノーヨー。　タローオ　ヨンドードーヨ。

oisi=o=wa　*joɴ-zjaa*　*i-noo=joo*　*taroo=o*　*joɴ-doo=doo=jo*

2=ACC=TOP　呼ぶ-SEQ.TOP　CONT-NEG.NPST=SFP　太郎=ACC　呼ぶ-PST=COP.NPST=SFP

あなたは呼んではいないよ。太郎を呼んだんだよ。

(195) リョコーニデンマ　イットーヅラニ

rjokoo=ni=deɴma　*iQ-too=dura=ni*

旅行=DAT=EXPL　行く-PST=COP.INFR=SFP

［「隣のうち，誰もいないみたいだぞ」と言われて］旅行にでも行ったのだろうよ。

7.6.4 疑問文

ここでは典型的な疑問文である問いかけ文について記し，自問や反語など周辺的疑問文については略す。間接疑問文は 8.2，疑問語疑問文にける疑問語の種類と形については 4 節を参照。

(196)～(199)に疑問語疑問文，(200)～(203)に真偽疑問文の例をあげる。疑問語疑問文でも真偽疑問文でも，平叙文と同じ断定形（動詞のル形，タ形など）か推量形（ヅラ形かラ形）が用いられる。その後に疑問助詞カが任意に付加される。ただし，真偽疑問文ではカを伴う場合が多い。非過去の名詞述語の場合，疑問語疑問文では (a)名詞言い切り，(b)名詞=助詞カ，(c)名詞=コピュラ断定形ドー，(d)名詞=コピュラ推量形ヅラ（=助詞カ）いずれも可能だが，真偽疑問文では(c)は不可で，(a)(b)(d)いずれかとなる。文末イントネーションは，疑問語疑問文でも真偽疑問文でも非上昇調がふつうで，上昇調も稀に聞かれる。例えば(203)の真偽疑問文でカを伴わない形でも，ゲ[ン]キ と非上昇調である。

(196) ナゼ　ソコイ　｛タッテール／タッテルヅラカ｝
naze　*soko=i*　*{taQ-tee-ru / taQ-te-ru=dura=ka}*
なぜ　そこ=ALL　{立つ-CONT-NPST / 立つ-CONT-NPST=COP.INFR=QP}
［立っている相手に］（あなたは）なぜそこに｛立っている？／立っているの？（lit. 立っているのだろうか）｝

(197) コン　ナカデ　ドノ　カシガ　ホシーラカ
koɴ　*naka=de*　*dono*　*kasi=ŋa*　*hosi-i=ra=ka*
この　中=INS　どの　菓子=NOM　欲しい-NPST=INFR=QP
［聞き手に複数の菓子を見せながら］この中でどのお菓子が欲しい？（lit. 欲しいだろうか）

(198) コリャー　ダレガ　｛カシー／カシヅラー｝
korjaa　*dare=ŋa*　*{kasii / kasi=duraa}*
これ.TOP　誰=GEN　{菓子 / 菓子=COP.INFR}
これは誰の｛菓子？／菓子なの？（lit. 菓子だろう）｝

(199) ダガ　モンドー
daŋa　*moɴ=doo*
誰の　物=COP.NPST
誰の物だ？

(200) オイシャー　イッショニ　ミルカヨ
oisjaa　*iQsjo=ni*　*mi-ru=ka=jo*
2.TOP　一緒=COP.ADVL　見る-NPST=QP=SFP
［私は今からこの番組を見るけど］あなたは一緒に見る？

(201) オイシノ　オトッサンワ　マイバン　バンシャクー　ノムカ
oisi=no　*o-toQ-saɴ=wa*　*maibaɴ*　*baɴsjakuu*　*nom-u=ka*
2=GEN　POL-父-HCR=TOP　毎晩　晩酌.ACC　飲む-NPST=QP
あなたのお父さんは毎晩酒を飲むか？

(202) タローガ　ウラー　ヨンドーヅラカ
taroo=ŋa　*uraa*　*joɴ-doo=dura=ka*
太郎=NOM　1.ACC　呼ぶ-PST=COP.INFR=QP
太郎が私を呼んだの？（lit. 呼んだのだろうか）

(203) オイシノ　オトッサンワ　｛ゲンキ／ゲンキカ／ゲンキヅラカ｝
oisi=no　*o-toQ-saɴ=wa*　*{geɴki / geɴki=ka / geɴki=dura=ka}*
2=GEN　POL-父-HCR=TOP　{元気 / 元気=QP / 元気=COP.INFR=QP}
あなたのお父さんは｛元気？／元気か？／元気？（lit. 元気だろうか）｝

(196)(197)(198)(202)(203)では推量形ヅラまたはラが使われている。逐語的に訳せばそれぞれ「立っているのだろうか」「欲しいだろうか」「菓子だろう」「呼んだのだろうか」「元気だろうか」となるが，共通語ではこれらの形式は問いかけでは不自然であり，自問表現にふさわしい。奈良田方言では問いかけ文における推量形の用法が共通語より広いと言える。

(196)(198)(199)(201)(202)(203)のような既定の事態について問う場合は任意にヅラが用いられ，(197)(200)のような未定の事態についてその場で判断を問う場合にはラか「断定形=カ」が用いられる。これらは共通語で任意に「の（か）」が使われる場合と「の（か）」が不適格な場合に対応している。

7.6.5　命令文・禁止文

奈良田方言には動詞の命令形・禁止形が 3 つずつあり，命令文・禁止文はこれらの形で作られる[41]。表 14 にカク *kak-u*（書く）で代表させて示す（他の動詞は 5.1 の表 8 参照）。命令形(a)においてクレル *kure-ru*（くれる）は不規則形クリョー *kurjoo* があり，規則形クレロ *kure-ro* よりもよく用いられる。命令文・禁止文専用の終助詞として(a)(c)に付くヤレ *=jare*，(c)のみに付く終助詞ッチャ *=Qcja* があり，少なくとも(a)と(c)には終助詞ヨ *=jo* も付きうる（いずれも終助詞付加は任意）。

3 つの形は待遇価が異なり，(a) < (b) < (c) の順に高くなる。具体的運用においては，聞き手との関係や発話行為機能（function of speech act）の種類により使い分けられる。話者 A の例を(204)(205)に示す。(205)のように話し手に利益のある行為を要求する（すなわち依頼（request）の発話行為が現れやすい）文脈では目上または疎の相手に対して「中止形テ＋補助動詞クレルの命令・禁止形」が選択される。

[41] 命令形・禁止形の形態・統語・韻律的特徴，また，命令形・禁止形以外の命令表現・禁止表現も含めた運用についてさらに詳しくは小西（2022 予定）を参照。

表 14　3 つの命令形と禁止形

	命令形	禁止形
(a)	カケ *kak-e*	カイチョ *kai-cjo*
(b)	カカンナ *kaka-ɴna*	カイチョンナ *kai-cjoɴna*
(c)	カカデ *kaka-de*	カイチョデ *kai-cjode*

(204) 「ここに名前を書け」と，書類の書き方を指示する

a. ココイ　ナマエオ　{カケー／カケヤレ}
koko=i　*namae=o*　*{kak-ee / kak-e=jare}*
ここ=ALL　名前=ACC　{書く-IMP / 書く-IMP=SFP}　［息子に］

b. ココイ　ナマエオ　{カケー／カケヤレ／カカンナ}
koko=i　*namae=o*　*{kak-ee / kak-e=jare / kaka-ɴna}*
ここ=ALL　名前=ACC　{書く-IMP / 書く-IMP=SFP / 書く-IMP.POL}　［友人に］

c. ココイ　ナマエオ　{カカデ／カカデヤレ／カカデッチャ}
koko=i　*namae=o*　*{kaka-de / kaka-de=jare / kaka-de=Qcja}*
ここ=ALL　名前=ACC　{書く-IMP.POL / 書く-IMP.POL=SFP / 書く-IMP.POL=SFP}
［家族以外の年上の人に］

(205) 「（手をケガしているので）ここに名前を書いてくれ」と頼む

a. ココイ　ナマエオ　{カケー／カケヤレ}
koko=i　*namae=o*　*{kak-ee / kak-e=jare}*
ここ=ALL　名前=ACC　{書く-IMP / 書く-IMP=SFP}　［息子に］

b. ココイ　ナマエオ　カイテ　{クリョー／クリョーヤレ／クレンナ}
koko=i　*namae=o*　*kai-te*　*{kurjoo / kurjoo=jare / kure-ɴna}*
ここ=ALL　名前=ACC　書く-SEQ　{BEN.IMP / BEN.IMP=SFP / BEN-IMP.POL}
［友人に］

c. ココイ　ナマエオ　カイテ　{クレデ／クレデッチャ}
koko=i　*namae=o*　*kai-te*　*{kure-de / kure-de=Qcja}*
ここ=ALL　名前=ACC　書く-SEQ　{BEN-IMP.POL / BEN-IMP.POL=SFP}
［家族以外の年上の人に］

間接的な命令・禁止表現として，7.6.2 の評価的モダリティの諸形式，7.6.3 の「説明のモダリティ形式」（動詞=コピュラ），(206)のような否定疑問表現が用いられる。

(206) ハヤク　コリョー　カカノーカ
haja-ku　*korjoo*　*kaka-noo=ka*
早い-ADVL　これ.ACC　書く-NEG.NPST=QP

早くこれを書かないか。

7.6.6 意志文・勧誘文

意志を表す動詞の形として C 動詞カカズ *kaka-zu*，カカス *kaka-su*，V 動詞ミズ *mi-zu*，ミス *mi-su* のようにズ *-zu*，ス *-su* がある（例(207)(208)）[42]。聞き手への勧誘表現としては後述のザー *-zaa* が使われることが多いが，ズも使われうる。その場合はヨが後接することが多い（例(209)）。3 人称の行為の推量表現としては 7.6.1 で見たラ *=ra* やヅラ *=dura* が使われ，ズは使われない[43]。主節述語の意志表現としてズ・ス形は義務的ではなく，基本形ル *-ru* に終助詞を付けた形が用いられることも多い（例(210)）。

(207) ソノ　カショー　オイシニ　クレズ
sono　*kasjoo*　*oisi=ni*　*kure-zu*
その　菓子.ACC　あなた=DAT　与える-VOL
その菓子をあなたにやろう。

(208) イマッカラ　テレビオ　ミスカト　オモーイソ
ima=Qkara　*terebi=o*　*mi-su=ka=to*　*omoo=iso*
今=ABL　テレビ=ACC　見る-VOL=QP=QT　思う.NPST=SFP
今からテレビを見ようと思うよ。

(209) ソリャー　ウラガ　カシドーデ　ミンナデ　カズヨ
sorjaa　*ura=ŋa*　*kasi=doo=de*　*miɴna=de*　*ka-zu=jo*
それ.TOP　1.PL=GEN　菓子=COP=CSL　皆=INS　食う-VOL=SFP
それは私たちの菓子だから，皆で食おうよ。（=(6)）

(210) イマッカラ　テレビオ　ミルイソー
ima=Qkara　*terebi=o*　*mi-ru=isoo*
今=ABL　テレビ=ACC　見る-NPST=SFP
今からテレビを見るよ。

勧誘専用の動詞の形は，ザー *-zaa* である。C 動詞 カカザー *kaka-zaa*，V 動詞 ミザー *mi-zaa* など。(211)にシル・スル {si, su}-ru（する）の例を示す。

---

[42] ス形は終助詞カを後接する場合に偏る。[zu̥ka] > [su̥ka] と，母音の無声化を経てさらに子音も無声化したと推測される。

[43] 共通語では「～うとする」という句において 3 人称主体の *-(j)oo* が使われるが，話者に「舟が沈もうとしている」に対応する文を確認したところ次のようにソーデイル *-soo=de i-ru* という表現が得られた。
フネガ　シズミソーデ　イルヨ
hune=ŋa sizumi-soo=de i-ru=jo (船=NOM 沈む-PRSM=COP.ADVL いる-NPST=SFP)

(211) イッショニ　　シゴトー　　｛シザー／セザー｝
iQsjo=ni　　*siŋoto=o*　　*{si-zaa / se-zaa}*
一緒=COP.ADVL　　仕事=ACC　　{する-HOR / する-HOR}
一緒に仕事をしよう。

7.6.7　感嘆文

感嘆文を作る専用の述語形式はなく，平叙文や自問の疑問文でも使われる終助詞ナ =*na* で感嘆が表される。共通語の「なんと」のような専用の構文は得られていない。ただし，感嘆表現を表す場合のナは，しばしば，長音化するとともに，直前より高くなり，ナー自体は平らな音調をとる。これが感嘆文専用の韻律的特徴だと言える。(212)ではカタカナ表記に音調を併記した。[が上昇位置，] が下降位置を表す。アシ，ナガの後の上昇はそれぞれ「足」「長い」のアクセント（上げ核）による。また，(213)のように形式名詞モンにコピュラを後接したモンダ =*mon=da* も感嘆文を作る。

(212) アシ[ガ]　　ナガ[イ[ナー
asi=ŋa　　*naŋa-i=naa*
足=NOM　　長い-NPST=SFP
足が長いなあ。

(213) リッパノ　　ワカイシュニ　　ナッタモンダナー
riQpa=no　　*wakaisju=ni*　　*naQ-ta=moN=da=naa*
立派=GEN　　青年=DAT　　なる-PST=もの=COP.NPST=SFP
立派な青年になったものだな。

7.6.8　終助詞

テンスとムードを分化した後に付く，非自立的な不変化詞を，終助詞とみなす。現在得られている終助詞を生起可能な統語環境とともに(214)に示す。

(214)　終助詞の種類

a. 文タイプが限定されており，ムード形式に直接付く：
　a1. 平叙文：ニ =*ni*，イソ =*iso*，ワ =*wa*，ゾ =*zo*
　a2. 疑問文・意志文：カ =*ka*
　a3. 命令文・禁止文：ヤレ =*jare*，チャ =*Qcja*

b. 種々の文タイプに生起し，ムード形式に直接付くか a の一部の形式に付く：ヨ =*jo*

c. 種々の文タイプに生起し，ムード形式に直接付くか a の一部の形式，b の形式に付く：
　ナ =*na*

ニは，平叙文で断定形・推量形に付く。例を(215)-(217)に示す。非過去・断定の名詞述語の場合，(216)のように，コピュラ（ドー =*doo*，ダ =*da*）を介す必要がある。他の終助詞が後接する例は得ていない。

(215) ブッコロンデ　アゴター　キットーニ
buQ-koroɴ-de　*aŋotaa*　*kiQ-too=ni*
EMPH-転ぶ-SEQ　あご.ACC　切る-PST=SFP
転んであごを切ったよ。

(216) コノ　カネワ　サビテ　イテ　ダメドーニ
kono　*kane=wa*　*sabi-te*　*i-te*　*dame=doo=ni*
この　鋼=TOP　錆びる-SEQ　CONT-SEQ　駄目=COP.NPST=SFP
この鋼は錆びていてだめだよ。

(217) ソノ　シャーダー　ソイツラガ　スルラニ
sono　*sjaadaa*　*soitu-ra=ŋa*　*su-ru=ra=ni*
その　仕事.TOP　そいつ-PL=NOM　する-NPST=INFR=SFP
その仕事はそいつらがするだろうよ。

イソは，平叙文で断定形に付く例を得ている（例(218)）。深沢（1957）は，非過去・断定の名詞述語において，名詞に直接イソが付く例を多くあげている（例(219)）。一方で，「動詞・形容詞の断定形=ダ」に付く例，推量形ヅラに付く例もある（例(220)(221)）。他の終助詞が後接する例は得ていない。

(218) キョーワ　シゴトーワ　シノーイソ
kjoo=wa　*siŋotoo=wa*　*si-noo=iso*
今日=TOP　仕事.ACC=TOP　する-NEG.NPST=SFP
今日は仕事をしないよ。

(219) お祖母さんはクンネブルが仕事いそ（深沢 1957: 154）
お祖母さんは居眠りをするのが仕事だよ。[44]

(220) その戸を開けるにやーヘスだいそ（深沢 1957: 194）
その戸を開けるには押すんだよ。

(221) たつだ一人の子どーであがーにクルメルづらいそ（深沢 1957: 158）
たった一人の子だからあんなにかわいがるのだろうよ。

[44] 深沢（1957）からの引用例の共通語訳は筆者らによる。深沢は名詞に付くイソの共通語訳に「です」を付していることがあるが，現在の話者によるとイソに対者敬語としての性格は認めにくい。

ワおよびゾは，平叙文で断定形に付き，推量形に付くことができない。例を(222)-(224)に示す。非過去・断定の名詞述語ではコピュラ（ドー・ダ）を介して用いられる。他の終助詞が後接する例は得ていない。

(222) ソージャー　ナイワー。　コー　スルドーワ。
soo=zjaa　*na-i=waa*　*koo*　*su-ru=doo=wa*
そう=COP.SEQ.TOP　NEG-NPST=SFP　こう　する-NPST=COP.NPST=SFP
そうじゃないよ。こうするんだよ。

(223) カマノ　ツカイカタガ　ヘタドーデ　ダメドーワ
kama=no　*tukaikata=ŋa*　*heta=doo=de*　*dame=doo=wa*
鎌=GEN　使い方=NOM　下手=COP.NPST=CSL　駄目=COP.NPST=SFP
鎌の使いかたが下手だから駄目だよ。

(224) マキダッポーデ　ブッサローゾ
makidaQpoo=de　*buQ-saroo=zo*
薪=INS　EMPH-たたく.NPST=SFP
［悪戯をした子供をおどして］薪で打ち付けるぞ。（=(105)）

疑問文・意志文におけるカについては 7.6.4 と 7.6.6，命令文・禁止文におけるヤレ，ッチャについては 7.6.5 を参照。

ヨは，平叙文・疑問文・勧誘文・命令文・禁止文に用いられる。平叙文では断定形と推量形に付き，非過去・断定の名詞述語の場合はコピュラを介す（例(225)-(228)）。疑問文では終助詞カの後に付く（7.6.4 例(200)）。勧誘文ではザー *-zaa* 形には付かず，ズ *-zu* 形に付く（7.6.6 例(209)）。命令文・禁止文では 7.6.5 で(a)(c)とした形に付くことを確認している（例(229)(230)）。また，ヨの後にさらに終助詞ナが付くことができる（例(226)）。

(225) ツットー　ユオガ　クサットーヨ
tuQ-too　*juo=ŋa*　*kusaQ-too=jo*
釣る-PST　魚=NOM　腐る-PST=SFP
釣った魚が腐ったよ。

(226) アリャー　ホンマニ　ウマイヨナ
arjaa　*hoɴma=ni*　*uma-i=jo=na*
あれ.TOP　本当=COP.ADVL　美味い-NPST=SFP=SFP
あれは本当にうまいよな。

(227) ソリャー　オイシノ　｛カシドーヨ ／ カシダヨ｝
sorjaa　*oisi=no*　*{kasi=doo=jo / kasi=da=jo}*
それ.TOP　2=GEN　{菓子=COP.NPST=SFP / 菓子=COP.NPST=SFP}

それはあなたの菓子だよ。

(228) コノ　トマター　ナカモ　アカイラヨ

kono　*tomataa*　*naka=mo*　*aka-i=ra=jo*

この　トマト.TOP　中=ADD　赤い-NPST=INFR=SFP

このトマトは中も赤いだろうよ。（=(170a)）

(229) コレッカラ　ダイジノ　ハナシガ　アルデ　シズカニ　シロヨ

kore=Qkara　*daizi=no*　*hanasi=ŋa*　*ar-u=de*　*sizuka=ni*　*si-ro=jo*

これ=ABL　大事=GEN　話=NOM　ある-NPST=CSL　静か=COP.ADVL　する-IMP=SFP

これから大事な話があるから，静かにしろよ。

(230) ウント　カデヨ

uɴto　*ka-de=jo*

たくさん　食う-IMP.POL=SFP

たくさん食べなさいよ。

(214)にあげていないが，(231)のように平叙文で，コピュラのダ *=da* またはドー *=doo* の後にのみ現れる終助詞イ *=i* がある。ヨの異形態だと思われる。

(231) オーチガ　オエトードーデ　ナオイタダイ

ooci=ŋa　*oe-too=doode*　*naoi-ta=da=i*

垣=NOM　壊れる-PST=CSL　直す-PST=COP.NPST=SFP

垣が壊れたので直したんだよ。

ナについては，平叙文，疑問文，また，平叙文と連続するものとして 7.6.7 で述べた感嘆文の例を得ている。平叙文では断定形と推量形に付き，非過去・断定の名詞述語の場合はコピュラを介す（例(232)(233)）。独話でも，対話で聞き手に確認する場合にも用いられる。疑問文では(234)のような自問の真偽疑問文で，カの後に付く。前述のとおりヨに後接しうる。ナに後接する終助詞はない。

(232) ソリャー　オイシノ　カイトー　ジドーナー

sorjaa　*oisi=no*　*kai-too*　*zi=doo=naa*

それ.TOP　2=GEN　書く-PST　字=COP.NPST=SFP

それはあなたの書いた字だな。

(233) コノ　ブター　タカク　ウレルラナ

kono　*butaa*　*taka-ku*　*ure-ru=ra=na*

この　豚=TOP　高い-ADVL　売れる-NPST=INFR=SFP

［独話で］この豚は高く売れるだろうな。

(234) コリャー　ウラントーノ　モノカナ
korjaa　*ura-ɴtoo=no*　*mono=ka=na*
これ.TOP　1-PL=GEN　物=QP=SFP
これは私たちの物かな。

7.7　待遇

主語を待遇的に高める尊敬形としてかろうじて使われるのは，カカレル *kak-are-ru*，ミラレル *mi-rare-ru* などのラレル形である。(235)に不規則動詞クル *ku-ru*（来る）の尊敬形キラレル *ki-rare-ru* の例をあげる。また，語彙的尊敬形式として「来る」の尊敬動詞ワセル *wase-ru* がある（深沢 1957: 157）。筆者らの調査ではワセルにラレルが付いた例(236)を得ている。しかしこれらは実際の使用は稀なようで，集落の目上が主語かつ聞き手であっても非尊敬形を用いるのが一般的である。対格や与格の補語を待遇的に高める謙譲形や，共通語の「ます」形や「です」のような丁寧形（対者敬語形）は見当たらない。

(235) センセーガ　イマ　チュード　キラレルヨー
seɴsee=ŋa　*ima*　*cjuudo*　*ki-rare-ru=joo*
先生=NOM　もう　すぐ　来る-HON-NPST=SFP
先生がもうすぐ来られるよ。

(236) オトーサンモ　ヒルママデニ　ワセラレルラニ
o-too-saɴ=mo　*hiruma=made=ni*　*wase-rare-ru=ra=ni*
POL-父-HCR=ADD　昼=LMT=DAT　来る.HON-HON-NPST=INFR=SFP
お父さん（話者の夫）も昼までに来られるだろうよ。

7.6.5 で述べたように，命令形・禁止形には，ぞんざいな(a)形（カケ，カイチョ）のほかに，由来不明で待遇価の高い(b)形（カカンナ，カイチョンナ），(c)形（カカデ，カイチョデ）がある。

また，聞き手に対する待遇にもとづく名詞の語彙的対立として 3.1 で述べた 2 人称代名詞がある。また，名詞を構成する接頭辞オ *o-* や敬称接尾辞サン *saɴ-* も待遇形式の一種と言える（3.4）。

8.　複文

8.1　引用節

発話や思考の引用節は助詞ト *=to* で表される（例(237)）。主節述語が動詞「言う」の場合，引用助詞と動詞が融合してチュー *=cju-u* となることが多い（例(238)）。また，発話の引用節に限り助詞チテ *=cite* も使われる（例(239)）。

(237) オニガ　ホンマニ　イルト　オモッテートー
oni=ŋa　*hoɴma=ni*　*i-ru=to*　*omoQ-tee-too*
鬼=NOM　本当=COP.ADVL　いる-NPST=QT　思う-CONT-PST
鬼が本当にいると思っていた。

(238) シャテーガ　イキイタイチュードーデ　シャテーオ　イカセトーヨ
sjatee=ŋa　*iki-ta-i=cju-u=doode*　*sjatee=o*　*ik-ase-too=jo*
弟=NOM　行く-DES-NPST=QT.言う-NPST=CSL　弟=ACC　行く-CAUS-PST=SFP
弟が行きたいというので，弟を行かせたよ。

(239) イシャニ　ナットー　ヒトガ　イルチテ　キートードーガ
isja=ni　*naQ-too*　*hito=ŋa*　*i-ru=cite*　*kii-too=dooŋa*
医者=DAT　なる-PST　人=NOM　いる-NPST=QT　聞く-PST=ADVS
ダレガ　イシャヅラカ
dare=ŋa　*isja=dura=ka*
誰=NOM　医者=COP.INFR=QP
医者になった人がいると聞いたけど，誰が医者なの？（lit. 医者だろうか）

主節の事態の時点において未実現の内容を表す場合に，形式名詞ヨー（様）にコピュラの副詞形が付いたヨーニ *=joo=ni* が使われる（例(240)）。

(240) マゴガ　シケンニ　ウカサルヨーニ　イノッタ
maŋo=ŋa　*sikeɴ=ni*　*ukasar-u=joo=ni*　*inoQ-ta*
孫=NOM　試験=DAT　受かる-NPST=様=COP.ADVL　祈る-PST
孫が試験に受かるように祈った。

8.2　疑問節

疑問の副詞節は，疑問語疑問・真偽疑問ともに疑問助詞カ *=ka* で表される。話し手にとって疑問節に対応する回答が(241)(242)のように未知か，(243)のように既知かによらない。

(241) オイシノ　オトッサンガ　サキョー　ノムカ　ドードーカ
oisi=no　*o-toQ-saɴ=ŋa*　*sakjoo*　*nom-u=ka*　*doo=doo=ka*
あなた=GEN　POL-父-HCR=NOM　酒.ACC　飲む-NPST=QP　どう=COP.NPST=QP
シラノーヨ
sira-noo=jo
知る-NEG.NPST=SFP
あなたのお父さんが酒を飲むかどうだか知らないよ。

(242) オリャー　オトーガ　ナニョー　ノムカ　シラノーヨ
orjaa　*otoo=ŋa*　*nanjoo*　*nom-u=ka*　*sira-noo=jo*
1.TOP　父=NOM　何.ACC　飲む-NPST=QP　知る-NEG.NPST=SFP
私は，お父さんが何を飲むか知らないよ。

(243) オリャー　オトーガ　ナニョー　ノムカ　シッテールヨ
orjaa　*otoo=ŋa*　*nanjoo*　*nom-u=ka*　*siQ-tee-ru=jo*
1.TOP　父=NOM　何.ACC　飲む-NPST=QP　知る-CONT-NPST=SFP
私は，お父さんが何を飲むか知っているよ。

8.3　連体節

連体節を一般に標示する形式はなく，動詞ル *-ru* ／トー *-too* などの断定形がそのまま連体節を作る（例(244)(245)）。非過去・断定の名詞述語の連体節では，属格ノ *=no* を用いる（例(246)）。

(244) ハナコガ　クル　ヒオ　オソイテ　クリョー
hanako=ŋa　*ku-ru*　*hi=o*　*osoi-te*　*kurjoo*
花子=NOM　来る-NPST　日=ACC　教える-SEQ　BEN.IMP
花子が来る日を教えてくれ。

(245) キニョーマデ　アカカットー　ミガ　クロク　ナッテ　シチマットーヨ
kinjoo=made　*aka-kaQtoo*　*mi=ŋa*　*kuro-ku*　*naQ-te*　*si-cimaQ-too=jo*
昨日=LMT　赤い-PST　実=NOM　黒い-ADVL　なる-SEQ　EMPH-PFV-PST=SFP
昨日まで赤かった実が，黒くなってしまったよ。

(246) ココロノ　キレーノ　ヒトダヨ
kokoro=no　*kiree=no*　*hito=da=jo*
心=GEN　きれい=GEN　人=COP.NPST=SFP
心のきれいな人だよ。

8.4　名詞節

奈良田方言では共通語の「の」にあたる準体助詞が発達しておらず，動詞ル *-ru*／トー *-too* などの断定形がそのまま名詞節になることができる。(247)は人，(248)(249)は物，(250)は事を表す例である。人や物を表す場合には形式名詞も使われる（3.5 参照）。

(247) オイシノ　マエー　スワッテルワ　ダレー
oisi=no　*mae=e*　*suwaQ-te-ru=wa*　*daree*
2=GEN　前=ALL　座る-CONT-NPST=TOP　誰
あなたの前に座っているのは誰？

(248) キニョー　イットーワ　アレドーヨ
kinjoo　*iQ-too=wa*　*are=doo=jo*
昨日　言う-PST=TOP　あれ=COP.NPST=SFP
昨日言ったのは，あれだよ。

(249) マット　イカイガ　ホシーヨ
maQto　*ika-i=ŋa*　*hosi-i=jo*
もっと　大きい-NPST=NOM　欲しい-NPST=SFP
もっと大きいのが欲しいよ。

(250) コドモノ　コラー　ヒトリデ　カンジョエ　イクガ
kodomo=no　*koraa*　*hitori=de*　*kaɴzjo=e*　*ik-u=ŋa*
子ども=GEN　頃.TOP　一人=INS　便所=ALL　行く-NPST=NOM
スゴク　オッカナカットー
suŋo-ku　*oQkana-kaQtoo*
すごい-ADVL　怖い-PST
子どもの頃は一人で便所に行くのがすごく怖かった。（=(25)）

8.5　仮定節

仮定節は，動詞肯定形では接辞レバ *-reba*，動詞否定形では接辞ナイバ *-naiba*，または接辞デーチャー *-deecjaa*，形容詞では接辞ケレバ *-kereba*，名詞述語ではコピュラの仮定形ジャー *=zjaa* で作られる。それぞれの例を(251)-(256)に示す。動詞レバ形は，(252)のように仮定と主節事態の関係が恒常的に成り立つ場合にも用いられる。

(251) イマ　チュード　テガミオ　カケバ　マニオーヨー
ima　*cjuudo*　*teŋami=o*　*kak-eba*　*manioo=joo*
今　すぐ　手紙=ACC　書く-CND　間に合う.NPST=SFP
今すぐ手紙を書けば，間に合うよ。

(252) タローワ　センセーオ　ミレバ　イツデモ　ニゲル
taroo=wa　*seɴsee=o*　*mi-reba*　*itu=demo*　*niŋe-ru*
太郎=TOP　先生=ACC　見る-CND　いつ=EXT　逃げる-NPST
太郎は先生を見ると，いつも逃げる。

(253) イマ　チュード　テガミオ　カカナイバ　マニアーノーヨ
ima　*cjuudo*　*teŋami=o*　*kaka-naiba*　*maniaa-noo=jo*
今　すぐ　手紙=ACC　書く-NEG.CND　間に合う-NEG.NPST=SFP
今すぐ手紙を書かなければ，間に合わないよ。

(254) ワラジオ　ツクラデーチャー　ハク　モナー　ナイヨ
warazi=o　*tukura-deecjaa*　*hak-u*　*monaa*　*na-i=jo*
草鞋=ACC　作る-NEG.CND　履く-NPST　物.TOP　ない-NPST=SFP
草鞋を作らなければ履く物がないよ。

(255) モシ　ミガ　アカケレバ　トラズヨ
mosi　*mi=ŋa*　*aka-kereba*　*tora-zu=jo*
もし　実=NOM　赤い-CND　取る-VOL=SFP
もし実が赤ければ，取ろうよ。

(256) モシ　タローガ　ガクセージャー　コノ　シゴター　タノメノーヨ
mosi　*taroo=ga*　*gakusee=zjaa*　*kono*　*sigotaa*　*tanom-e-noo=jo*
もし　太郎=NOM　学生=COP.CND　この　仕事=TOP　頼む-POT-NEG.NPST=SFP
もし太郎が学生なら，この仕事は頼めないよ。

ただし，主節が命令文の場合，動詞のレバは用いられず，(257)のようにタイバ *-taiba* が使われる。タイバは(258)のように継起節も表す[45]。

(257) ヨラー　ジュージニ　ナッタイバ　チューチュード　ネロヨ
joraa　*zjuu-zi=ni*　*naQ-taiba*　*cjuucjuudo*　*ne-ro=jo*
夜.TOP　十-CLF=DAT　なる-CND　さっさと　寝る-IMP=SFP
夜は 10 時になったら，さっさと寝ろよ。

(258) ハナコガ　マドー　アケタイバ　ムシガ　ハイッテ　キトーニ
hanako=ŋa　*mado=o*　*ake-taiba*　*musi=ŋa*　*haiQ-te*　*ki-too=ni*
花子=NOM　窓=ACC　開ける-CND　虫=NOM　入る-SEQ　来る-PST=SFP
花子が窓を開けたら，虫が入ってきたよ

真偽が不確かな事態を真と仮定する認識的条件（有田 2007）の場合は動詞・形容詞の場合も断定形に直接ジャー *=zjaa* が付く（例(259)(260)）。

(259) ハナコガ　アシタ　コノージャー　サキー　シラセロヨ
hanako=ŋa　*asita*　*ko-noo=zjaa*　*saki=i*　*sirase-ro=jo*
花子=NOM　明日　来る-NEG.NPST=COP.CND　先=ALL　知らせる-IMP=SFP
花子があした来ないのなら，先に知らせろよ。

[45] タイバはタレバに由来すると考えられる。用法としては共通語の「たら」相当であり，奈良田方言でもタラ *-tara* が用いられることもある。

(260) テガミオ　カイトージャー　チュード　ダシー
teŋami=o　*kai-too=zjaa*　*cjuudo*　*dasi=i*
手紙=ACC　書く-PST=COP.CND　すぐ　出す=ALL
イカナイバ　イケヌヨ
ika-naiba　*ik-e-nu=jo*
行く-NEG.CND　行く-POT-NEG.NPST=SFP
手紙を書いたのなら，すぐ出しに行かなければいけないよ。（=(188)）

8.6　理由節

理由節は断定形にドーデ *=doode* またはデ *=de* を付けて作られる。(261)-(264)に例を示す。ドーデは語形成としてはコピュラに理由節を作るデが後接したと考えられるが，共時的には一語化しているとみなす[46]。ただし(263)のような非過去の名詞述語の場合，コピュラの断定形ドーにデが続いた形とみなせる。

(261) キョーワ　ジカンガ　アルドーデ　ユックリ　テガミガ　カケルヨ
kjoo=wa　*zikaɴ=ŋa*　*ar-u=doode*　*juQkuri*　*teŋami=ŋa*　*kak-e-ru=jo*
今日=TOP　時間=NOM　ある-NPST=CSL　ゆっくり　手紙=NOM　書く-POT-NPST=SFP
今日は時間があるので，ゆっくり手紙が書けるよ。（=(153b)）

(262) クイキレナカットードーデ　ノコイトー
kui-kir-e-nakaQ-too=doode　*nokoi-too*
食う-PFV-POT-NEG-PST=CSL　残す-PST
食べきれなかったので残した。（=(163)）

(263) キョーワ　ヒマドーデ　ウター　キーテータダイ
kjoo=wa　*hima=doo=de*　*utaa*　*kii-tee-ta=da=i*
今日=TOP　暇=COP.NPST=CSL　歌.ACC　聞く-CONT-PST=COP.NPST=SFP
今日は暇なので，歌を聞いていたんだよ。

(264) オッカナイデ　ヒトリジャー　イケーノーヨ
oQkana-i=de　*hitori=zjaa*　*ik-ee-noo=jo*
怖い-NPST=CSL　一人=INS.TOP　行く-POT-NEG.NPST=SFP
怖いから一人では行けないよ。（=(122)）

[46] このようにみなせるの根拠の一つとして，コピュラの基本形（非過去の断定形）にはダもあるが，理由節ではダデが用いられないことがあげられる。また，主節で動詞・形容詞の断定形にコピュラが続く形が共通語の「のだ」相当であることを考え合わせると，理由節のドーデを「コピュラ「ドー」=理由助詞「デ」」と分析できるならそれは「のだから」相当ということになるが，ドーデ節は(262)のように「のだから」には対応していない。

8.7　逆接仮定節

逆接仮定節は，動詞肯定形は接辞テモ *-temo*，またはトーッテモ *-tooQtemo*，動詞否定形はノーッテモ *-nooQtemo*，形容詞はクテモ *-kutemo*，名詞はドーッテモ *=dooQtemo* で表される。それぞれの例を(265)-(269)に示す。

(265) カバンノ　ナカー　ミテモ　ナンデンマ　メッケーノーヨ
kabaɴ=no　*nakaa*　*mi-temo*　*naɴ=deɴma*　*meQke-e-noo=jo*
鞄=GEN　中.ACC　見る-CONC　何=EXT　見つける-POT-NEG.NPST=SFP
鞄の中を見ても，何も見つけられないよ。

(266) ハナコガ　キトーッテモ　タローワ　ウレシガラノーヨ
hanako=ŋa　*ki-tooQtemo*　*taroo=wa*　*uresi-ŋara-noo=jo*
花子=NOM　来る-CONC　太郎=TOP　嬉しい-VBL-NEG.NPST=SFP
花子が来ても，太郎は喜ばないよ（lit. 嬉しがらないよ）。

(267) ハナコガ　コノ　エーガー　ミノーッテモ　タローワ
hanako=ŋa　*kono*　*eeŋaa*　*mi-nooQtemo*　*taroo=wa*
花子=NOM　この　映画.ACC　見る-NEG.CONC　太郎=TOP
キニャー　セヌラー
ki=njaa　*se-nu=raa*
気=DAT.TOP　する-NEG.NPST=INFR
花子がこの映画を見なくても，太郎は気にしないだろう（lit. 気にはしないだろう）。
（=(136)）

(268) タカクテモ　コーヨ
taka-kutemo　*koo=jo*
高い-CONC　買う.NPST=SFP
高くても買うよ。

(269) イマー　シズカドーッテモ　アトカラ
imaa　*sizuka=dooQtemo*　*ato=kara*
今.TOP　静か=COP.CONC　後=ABL
シャラウルサク　ナルカモ　シレノーヨ
sjara-urusa-ku　*nar-u=ka=mo*　*sire-noo=jo*
EMPH-うるさい-ADVL　なる-NPST=QP=ADD　知れる-NEG.NPST=SFP
今は静かでも，後からうるさくなるかもしれないよ。（=(180)）

8.8　逆接節

逆接節（逆接確定節）は，断定形にドーガ *=dooŋa* またはガ *=ŋa* を付けて作られる。(270)-(274)に例を示す。ドーガは語形成としてはコピュラに逆接節を作るガが後接したと考えられる

が，共時的には一語化しているとみなす[47]。ただし(272)のような非過去の名詞述語の場合は，コピュラの断定形ドーにガが続く形とみなせる。(274)のように，主節事態との間に逆接的な意味関係（主節の事態が従属節の事態からの一般的な帰結に反しているという関係）が希薄な，主節の発話行為の前置き表現としての用法もある。

(270) タローワ　ヨク　テレビョーワ　ミルドーガ
taroo=wa　*joku*　*terebjoo=wa*　*mi-ru=dooŋa*
太郎=TOP　よく　テレビ.ACC=TOP　見る-NPST=ADVS
ドーデ　アノ　ハイユーオワ　シラノーズラ
doode　*ano*　*haijuu=o=wa*　*sira-noo=zura*
どうして　あの　俳優=ACC=TOP　知る-NEG.NPST=COP.INFR
太郎はよくテレビを見るのに，どうしてあの俳優を知らないのだろう。

(271) モー　ミガ　アカイドーガ　マダ　トッチャー　イケノーヨ
moo　*mi=ŋa*　*aka-i=dooŋa*　*mada*　*toQ-cjaa*　*ik-e-noo=jo*
もう　実=NOM　赤い-NPST=ADVS　まだ　取る-CND　行く-POT-NEG.NPST=SFP
もう実が赤いが，まだ取ってはいけないよ。（=(192)）

(272) イマー　シズカドーガ　アトカラ　ランガーシク
imaa　*sizuka=doo=ŋa*　*ato=kara*　*raɴŋaasi-ku*
今.TOP　静か=COP.NPST=ADVS　後=ABL　騒々しい-ADVL
ナルカモ　シレノーヨ
nar-u=ka=mo　*sire-noo=jo*
なる-NPST=QP=ADD　知れる-NEG.NPST=SFP
今は静かだが，あとからうるさくなるかもしれないよ。

(273) ウラガ　イェノ　オトーワ　ムカシャー　ゲンキダットーガ
ura=ŋa　*je=no*　*otoo=wa*　*mukasjaa*　*geɴki=daQ-too=ŋa*
1.PL=GEN　家=GEN　父=TOP　昔.TOP　元気=COP-PST=ADVS
コノゴラー　ビョーキガチダヨ
konoŋoraa　*bjooki-ŋaci=da=jo*
このごろ.TOP　病気-NMNL=COP.NPST=SFP
俺のお父さんは昔は元気だったけど，このごろは病気がちだよ。

(274) イシャニ　ナットー　ヒトガ　イルチテ　キートードーガ
isja=ni　*naQ-too*　*hito=ŋa*　*i-ru=cite*　*kii-too=dooŋa*
医者=DAT　なる-PST　人=NOM　いる-NPST=QT　聞く-PST=ADVS

[47] この点は理由節を作る助詞ドーデと並行している（8.6）。

ダレガ　　イシャヅラカ
dare=ŋa　　*isja=dura=ka*
誰=NOM　　医者=COP.INFR=QP
医者になった人がいると聞いたけど，誰が医者なの？（lit. 医者だろうか）（=(239)）

8.9　時間節

主節の事態の成立時を，別の事態との関係によって限定する副詞節を「時間節」とする[48]。これまでに得られた形式を(275)に，それぞれの例を(276)-(280)に示すが，他の形式もあると思われる。

(275) 時間節を作る形式
オリ *ori*（とき，おり（折）），オリャー =*orjaa* //=ori=wa//（とき=TOP）：同時。共通語の「とき（は）」相当
アイダニ *aida=ni*（あいだ（間）=DAT）：期間。共通語の「あいだに」相当
ウチニ *uci=ni*（うち（内）=DAT）：期間。共通語の「うちに」相当
テカラ *-te=kara*（-SEQ=ABL）：主節の事態より前。共通語の「てから」相当

(276) タローガ　ブッタオレテ　イトーオリ　オイシャー　コエオ
taroo=ŋa　*buQ-taore-te*　*i-too=ori*　*oisjaa*　*koe=o*
太郎=NOM　EMPH-倒れる-SEQ　いる-PST=時　あなた.TOP　声=ACC
カケナンドーカ
kake-naɴdoo=ka
かける-NEG.PST=QP
太郎が倒れていた時，あなたは声をかけなかったの？

(277) アサヒオ　ミル　オリャー　アソコニ　イケバ　ヨイヨ
asahi=o　*mi-ru*　*orjaa*　*asoko=ni*　*ik-eba*　*jo-i=jo*
朝日=ACC　見る-NPST　時.TOP　あそこ=DAT　行く-CND　良い-NPST=SFP
朝日を見るときは，あそこに行けばいいよ。（=(184)）

(278) タローワ　チョクラ　ミノー　アイダニ　ヤセテ　シッチマットー
taroo=wa　*cjokura*　*mi-noo*　*aida=ni*　*jase-te*　*siQ-cimaQ-too*
太郎=TOP　少し　見る-NEG.NPST　あいだ=DAT　痩せる-SEQ　EMPH-PFV-PST
太郎は少し見ないあいだに痩せてしまった。

(279) クモノ　スガ　シラノー　ウチニ　デキテートーニー
kumo=no　*su=ŋa*　*sira-noo*　*uci=ni*　*deki-tee-too=nii*
蜘蛛=GEN　巣=NOM　知る-NEG.NPST　うち=DAT　できる-CONT-PST=SFP

[48] 日本語記述文法研究会（2008: 165）の時間節の定義を参照。

蜘蛛の巣が知らないうちにできていたよ。

(280) ミヅデ　ヌライテッカラ　フク
midu=de　*nurai-te=Qkara*　*huk-u*
水=INS　濡らす-SEQ=ABL　拭く-NPST
水で濡らしてから拭く。（=(71)）

8.10　目的節

目的節を作る形式として，形式名詞ヨー（様）にコピュラの副詞形が付くヨーニ *=joo=ni*（例(281)），動詞語幹（C 動詞は i 形）に与格ニ *=ni*，向格イ *=i* が付く形式を得ている（例(282)(283)）。与格ニと向格イは移動の目的を表す。

(281) アサッテワ　サブク　ナルッチュドーデ　カゼオ
asaQte=wa　*sabu-ku*　*nar-u=Qcju=doode*　*kaze=o*
明後日=TOP　寒い-ADVL　なる-NPST=QT.言う.NPST=CSL　風邪.ACC
ヒカノーヨーニ　キオ　ツケナイバドーヨ
hika-noo=joo=ni　*ki=o*　*tuke-naiba=doo=jo*
ひく-NEG.NPST=様=COP.ADVL　気=ACC　付ける-NEG.CND=COP.NPST=SFP
明後日から寒くなるというから，風邪をひかないように気を付けなければならないよ。

(282) ナニョー　カイニ　イクー
nanjoo　*kai=ni*　*ik-uu*
何.ACC　買う=DAT　行く-NPST
何を買いに行く？

(283) スモーオ　ミー　イカザー
sumoo=o　*mi=i*　*ika-zaa*
相撲=ACC　見る=ALL　行く-HOR
相撲を見に行こう。

8.11　様態節

主節の事態の付帯状況を表す節として，動詞に接辞ナガラ *-naŋara* を付した形がある（例(284)）。

(284) ツヅミョー　タタキナガラ　オドッタ
tudumjoo　*tataki-naŋara*　*odoQ-ta*
鼓.ACC　叩く-ADVL　踊る-PST
鼓を打ちながら，踊った。

知覚対象の様子を表す節として，「属格＋ヨーニ (=*joo*=*ni*)」「対格＋動詞「見る」の過去形トー (-*too*)＋ヨーニ (=*joo*=*ni*)」という構造の形式を得ている。それぞれの例を(285)(286)に示す。後者は，共通語の「みたい（だ・に）」が文法化を遂げる前の段階を呈している。

(285) イトノヨーニ　　ホソイ
ito=no=joo=ni　　*hoso-i*
糸=GEN=様子=COP.ADVL　　細い-NPST
糸のように細い。

(286) ウマー　ミトーヨーニ　　ハヤク　ハシルナ
umaa　*mi-too=joo=ni*　　*haja-ku*　*hasir-u=na*
馬.ACC　見る-PST=様子=COP.ADVL　　速い-ADVL　走る-NPST=SFP
馬みたいに速く走るなあ。

8.12　並列節

複数の事態を例示的に等位に並列する形式として，(287)のようなタリ -*tari* がある。共通語の「たり」と同様に，主節の事態にもタリが付き，形式動詞スルが続く「タリ スル」 -*tari su-ru* となる。

(287) ソノ　ツボイー　ウメオ　ツケタリ　フキオ　ツケタリー
sono　*tubo=ii*　*ume=o*　*tuke-tari*　*huki=o*　*tuke-tarii*
その　壺=ALL　梅=ACC　漬ける-MUL　蕗=ACC　漬ける-MUL
シテートードーヨ
si-tee-too=doo=jo
する-CONT-PST=COP.NPST=SFP
その壺に梅を漬けたり蕗を漬けたりしていたのだよ。

8.13　中止節

動詞のテ -*te*，動詞否定形のデーテ -*deete*，形容詞のクテ -*kute*，コピュラのデ =*de* は，主節事態との意味関係を積極的に表さない副詞節を作る。これを中止節と呼ぶ。(288)(292)のように対比的な事態を並置する用法，(289)のように付帯状況を表す用法，(290)(291)のように時間的な継起関係や因果関係を読みとれる用法がある。動詞否定形のデーテは，(289)のような付帯状況（共通語の「～ずに」「～ないで」相当）でも，(290)のような事態の継起関係・理由を表す場合（共通語の「～なくて」相当）でも使われる。動詞のテ形が補助動詞句構造を作ることについては 5.2 で述べたとおりである。

(288) ハナコガ　ブンオ　カイテ　タローガ　エオ　カイタ
hanako=ŋa　*buɴ=o*　*kai-te*　*taroo=ŋa*　*e=o*　*kai-ta*
花子=NOM　文=ACC　書く-SEQ　太郎=NOM　絵=ACC　描く-PST
花子が文を書いて，太郎が絵を描いた。

(289) タローワ　テレビョーモ　ミデーテ　シゴトー　シテ　イル
taroo=wa　*terebjoo=mo*　*mi-deete*　*siŋoto=o*　*si-te*　*i-ru*
太郎=TOP　テレビ.ACC=ADD　見る-NEG.SEQ　仕事=ACC　する-SEQ　CONT-NPST
太郎はテレビも見ないで，仕事をしている。

(290) タローワ　テレビノ　ニュースーモ　ミデーテ　コマルヨー
taroo=wa　*terebi=no*　*njuusuu=mo*　*mi-deete*　*komar-u=joo*
太郎=TOP　テレビ=GEN　ニュース.ACC=ADD　見る-NEG.SEQ　困る-NPST=SFP
太郎はテレビのニュースも見なくて，困るよ。

(291) ヒボガ　カタクテ　トケーノーニ
hibo=ŋa　*kata-kute*　*tok-ee-noo=ni*
ひも=NOM　固い-SEQ　解く-POT-NEG.NPST=SFP
ひもが固くてほどけないよ。

(292) タローワ　ガクセーデ　ハナカー　カイシャインドーヨ
taroo=wa　*gakusee=de*　*hanakaa*　*kaisjaiɴ=doo=jo*
太郎=TOP　学生=COP.SEQ　花子.TOP　会社員=COP.NPST=SFP
太郎は学生で，花子は会社員だよ。

9.　おわりに

本稿では奈良田方言の文法について略述したが，文間の接続詞や談話標識，感動詞の類については触れることができなかった。節を設けて記述したカテゴリーについても，各形式が担う意味・機能については概略的な名称づけや分類にとどまっており，韻律と文法との関係については簡単に触れたのみである。これらは今後の課題として残されている。

略号一覧

-	接辞境界	
=	接語境界	
+	複合語内の形態素境界	
1	1 人称	
2	2 人称	
ABL	ablative	奪格
ACC	accusative	対格
ADD	additive	累加
ADN	adnominal	連体
ADVL	adverblizer	副詞化
ADVS	adversative	逆接
ALL	allative	向格
BEN	benefactive	受益，与益
CAUS	causative	使役
CLF	classifier	類別
CMP	comparative	比較格

CND	conditional	仮定
COM	comitative	共格
CONC	concessive	逆接仮定
CONT	continuative	継続
COP	copular verb	コピュラ
CSL	causal	理由
DAT	dative	与格
DES	desiderative	希望
DIM	diminutive	指小辞
EMPH	emphatic	強調
EXPL	exemplative	例示
EXT	extreme	極限
GEN	genitive	属格
HCR	hypocoristic	尊称
HON	honorific	尊敬
HOR	hortative	勧誘
HS	hearsay	伝聞
IMP	imperative	命令
INFR	inferential	推量
INS	instrumental	具格
LMT	limitative	限定格
MUL	multiple	並列
NEG	negative	否定
NMNL	nominalizer	名詞化
NOM	nominative	主格
NPST	non-past	非過去
PASS	passive	受身
PFV	perfective	完了
PL	plural	複数
POL	polite	丁寧
POT	potential	可能
PROH	prohibitive	禁止
PRSM	presumptive	推定
PST	past	過去
QP	question particle	疑問助詞
QT	quotative	引用
RECP	reciprocal	相互
RST	restrictive	限定
SEQ	sequential	中止
SFP	sentence-final particle（疑問助詞はのぞく）	終助詞
TOP	topic	主題
VBL	verbalizer	動詞化
VOL	volitional	意志

参照文献

有田節子 (2007)『日本語条件文と時制節性』東京：くろしお出版.

稲垣正幸 (1957)「奈良田方言のアクセント」稲垣正幸・他（編）所収，35-65.

稲垣正幸・清水茂夫・深沢正志（編） (1957)『奈良田の方言』甲府：山梨民俗の会.

上野善道 (1975)「アクセント素の弁別的特徴」『言語の科学』6: 23-84.

上野善道 (1976)「奈良田アクセント素の所属語彙」『文経論叢 文学篇』11: 1-32.

上野善道 (1977)「奈良田方言の基礎語彙」『文経論叢 文学篇』12: 1-13.

上野善道 (1981)「奈良田方言の基礎語彙 (2)」『金沢大学文学部論集 文学科篇』1: 63-92.

上野善道 (1984)「新潟県村上方言のアクセント」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第二巻 言語学編』347-390. 東京：三省堂.

上野善道 (2011)「「上げ核」の由来：奈良田アクセントの成立過程」坂詰力治（編）『言語変化の分析と理論』599-614. 東京：おうふう.

国立国語研究所（編） (1966-1974) 『日本言語地図』1～6 集，東京：大蔵省印刷局.
国立国語研究所（編） (1989-2006) 『方言文法全国地図』1～6 集，東京：財務省印刷局.
小西いずみ (2001) 「奈良田方言アクセントの現在：東京式アクセントの習得・併用と従来アクセントの変化」『人文学報』320: 25-40.
小西いずみ (2002) 「サ行動詞イ音便化の例外語について：山梨県奈良田方言の場合」『山梨ことばの会会報』12: 1-10.
小西いずみ (2021) 「「方言の島」山梨県奈良田の言語状況」『文化交流研究』34: 87-94.
小西いずみ (2022 予定) 「山梨県奈良田方言の行為要求表現体系：命令と禁止の対称性に着目して」『国語と国文学』99(5).
小林隆 (2004) 『方言学的日本語史の方法』東京：ひつじ書房.
佐々木冠 (2004) 『水海道方言における格と文法関係』東京：くろしお出版.
篠崎晃一・荻野綱男 (1999) 「消えゆく方言の島・奈良田の現在」『日本語学』18(3): 72-79.
地域資料デジタル化研究会 (2013)『方言の島　奈良田のことば』（DVD），甲府：地域資料デジタル化研究会.
角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語：言語類型論から見た日本語』改訂版，東京：くろしお出版.
西山村総合学術調査団（編）(1958)『西山村総合調査報告書』甲府：山梨県教育委員会.
日本語記述文法研究会（編）(2003)『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』東京：くろしお出版.
日本語記述文法研究会（編）(2008)『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』東京：くろしお出版.
早川町教育委員会（編）（1980）『早川町誌』甲府：早川町誌編纂委員会.
深沢泉 (1958)「奈良田の語彙」西山村総合学術調査団（編）所収，261-268.
深沢正志 (1957)「奈良田方言語彙」稲垣正幸・他（編）所収，123-206.
深沢正志 (1989)『秘境・奈良田』甲府：山梨ふるさと文庫.
吉田雅子 (2014)「山梨県甲府市方言」方言文法研究会（編）『全国方言文法辞典資料集 (2) 活用体系』（科学研究費報告書）53-65.

Silverstein, Michael (1976) Hierarchy of features and ergativity. In Robert Dixon (ed.) *Grammatical Categories in Australian Languages,* 112-171. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies.